

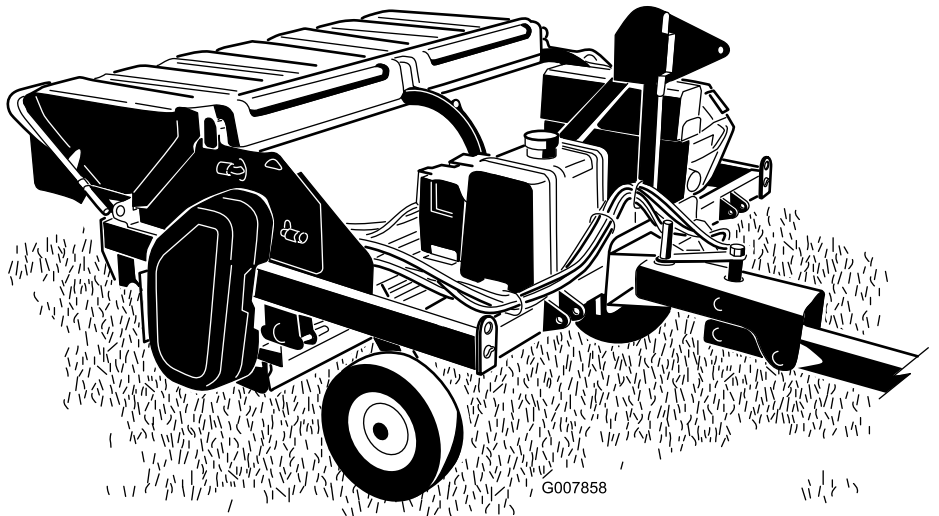


Count on it.

オペレーターズマニュアル

プロコア・プロセッサ

モデル番号09749—シリアル番号 310000001 以上



この製品は、関連するEU規制に適合しています； 詳細については、DOC シート（規格適合証明書）をご覧ください。

警告

カリフォルニア州 第65号決議による警告

The engine exhaust from this product contains chemicals known to the State of California to cause cancer, birth defects, or other reproductive harm.

This spark ignition system complies with Canadian ICES-002.

The enclosed *Engine Owner's Manual* is supplied for information regarding the US Environmental Protection Agency (EPA) and the California Emission Control Regulation of emission systems, maintenance, and warranty. Replacements may be ordered through the engine manufacturer.

はじめに

この機械は専門業務に従事するプロのオペレータが運転操作することを前提として製造されています。この機械の主たる用途はエアレーション作業によって発生したコアを集め、砕き、散布する 3 つの作業を同時に行う業務です。

この説明書を読んで製品の運転方法や整備方法を十分に理解し、他人に迷惑の掛からないまた適切な方法でご使用ください。この製品を適切かつ安全に使用するのをお客様の責任です。

弊社Toro のウェブサイトwww.Toro.com で製品・アクセサリ情報の閲覧、代理店についての情報閲覧、お買い上げ製品の登録などを行っていただくことができます。

整備について、またToro 純正部品についてなど、分からないことはお気軽に弊社代理店またはToro カスタマー・サービスにおたずねください。お問い合わせの際には、必ず製品のモデル番号とシリアル番号をお知らせください。図 1 にモデル番号とシリアル番号を刻印した銘板の取り付け位置を示します。いまのうちに番号をメモしておきましょう。

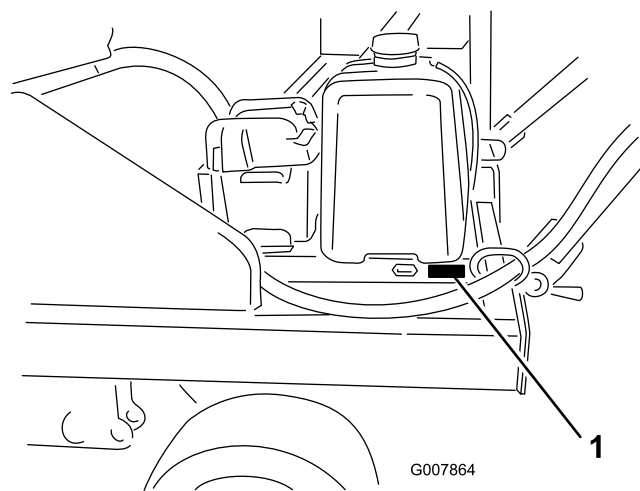


図 1

1. モデル番号とシリアル番号の表示場所

モデル番号 _____

シリアル番号 _____

この説明書では、危険についての注意を促すための警告記号図 2を使用しております。死亡事故を含む重大な人身事故を防止するための注意ですから必ずお守りください。



図 2

1. 危険警告記号

この他に2つの言葉で注意を促しています。**重要**「重要」は製品の構造などについての注意点を、**注**はその他の注意点を表しています。

目次

はじめに	2
安全について	4
管理者の責任	4
運転の前に	4
運転中に	4
保守	5
安全ラベルと指示ラベル	6
組み立て	11
1 バッテリーを取り出し、電解液を入れて充電する	12
2 バッテリーを取り付ける	13
3 ジャッキ・スタンドを取り付ける	13
4 格納保管用ピンの使い方	15
5 ワンパス用の取り付け手順	15
6 牽引車両からの取り外し	17
7 ワークマンへの取り付け	17
8 ワークマンからの取り外し	19
9 ブラシの高さの調整	20
10 コア・プロセッサの水平調整	20
製品の概要	21
各部の名称と操作	21
仕様	23
ワークマンなどの作業用車両（牽引用車両）のための注意事項	23
Attachments/Accessories	23
運転操作	24
燃料を補給する	24
エンジン・オイルの量を点検する	25
油圧作動液	25
ブラシの高さの調整	25
コア・プロセッサの水平調整	26
現場でブラシの高さを調整する	27
ローラ・スクレーパを調整する	27
タイヤ空気圧を点検する	29
ホイール・ナットのトルクを点検する	29
始動手順	29
停止手順	29
コア・プロセッサの運転操作	29
ワンパス作業	30
ヒッチ牽引作業	30
運転のヒント	30
運転中に	31
移動走行	31
土壌の水分について	32
土壌水分表	33

ブラシ/チョッパー・ハウジングの点検と清掃	34
作業後の洗浄と点検	34
チョッパー・チップスの点検	34
高地での使用について	35
保守	36
推奨される定期整備作業	36
始業点検表	37
整備前に行う作業	37
潤滑	38
ベアリングとブッシュのグリスアップ	38
エンジンの整備	39
エア・クリーナの整備	39
エンジン・オイルについて	40
点火プラグの整備	42
燃料系統の整備	43
燃料フィルタの交換	43
燃料タンクの整備	43
電気系統の整備	44
バッテリーの手入れ	44
冷却系統の整備	45
エンジンのスクリーンとオイル・クーラの清掃	45
エンジンの清掃	45
ベルトの整備	46
ベルトの調整	46
油圧系統の整備	49
油圧ラインとホースの点検	49
保管	49
図面	50
保証条件および保証製品	52
保証請求の手続き	52
オーナーの責任	52
保証の対象とならない場合	52
部品	52
ディープ・サイクル・バッテリーの保証について	52
保守整備に掛かる費用はオーナーが負担するものとします	52
その他	52
エンジン関係の保証について	52
米国とカナダ以外のお客様へ	52

安全について

安全な御使用のためには、機械の運転、移動や搬送、保守整備、保管などに係わる人々の日常の意識や心がけ、また適切な訓練などが極めて重要です。不適切な使い方をしたり手入れを怠ったりすると、死亡や負傷などの人身事故につながります。事故を防止するために、以下に示す安全のための注意事項を必ずお守りください。

管理者の責任

- ・オペレータに対して十分な訓練を行い、オペレーターズマニュアルおよび機体に貼付されているステッカーの内容を熟知させてください。
- ・特殊な環境（例えば急斜面など）での作業ルールや手順を必ず作成してください。

運転の前に

- ・お使いになる前にこのマニュアルを読み、内容をよく理解してください。使い方を守ってください。機体にも注意事項などが表示されています。操作方をしっかり身につけ、緊急時にすぐに停止できるようになってください。Toro のウェブサイト www.Toro.com で製品やアクセサリ情報の閲覧、代理店についての情報閲覧、お買い上げ製品の登録などを行っていただくことができます。
- ・絶対に、供に運転させないでください。大人であっても適切な訓練を受けていない人には絶対に運転させないでください。このマニュアルを読み、内容をきちんと理解した人のみが取り扱ってください。
- ・薬物やアルコールを摂取している時は絶対に本機を運転しないでください。
- ・操作方をしっかり身につけ、緊急時にすぐにエンジンを停止できるようになってください。
- ・ガードなどの安全装置やステッカー類は必ず所定の場所に取り付けて使用してください。これらが破損・故障したり、文字が読めなくなったりした場合は、作業前に修理・交換してください。また、ゆるんでいるボルトやナットは締め付け、常に安全に使用できるようにしてください。
- ・作業には頑丈な靴を着用してください。サンダル、テニスシューズ、スニーカー、裸足等での作業は危険です。また、だぶついた衣類は機械にからみつく危険がありますから着用しないでください。安全メガネ、安全靴、長ズボンおよびヘルメットの着用を

おすすめします。地域によってはこれらの着用が条例などで義務付けられています。

- ・ガソリンなどの燃料の取り扱いに際しては安全に特にご注意ください。燃料は引火性が高く、気化すると爆発する危険があります。
 - － 燃料は必ず認可された容器に保管する。
 - － 屋内での給油や燃料の抜き取りは絶対にしない。
 - － エンジンが熱い時には絶対に燃料タンクのフタを開けたり給油したりしないでください。給油はエンジンが十分に冷えてから行う。禁煙を厳守する。
- ・危険に結びつくような改造をしないでください。

運転中に

- ・回転部に巻き込まれると重大な人身事故となります。事故防止のため、可動部に手足や衣服などを近づけないよう十分に注意してください。カバーやシュラウドやガードは必ず取り付けて使用してください。
- ・**大丈夫だろう、は非常に危険！人や動物が突然目の前に現れたらすぐに作業を停止しましょう。**注意力の分散、アップダウン、破損したガードから飛び出す異物など思わぬ危険があります。周囲に人がいなくなるまで作業を再開しないでください。
- ・絶対に人を乗せないでください。
- ・斜面では急停止・急発進しない。
- ・隠れて見えない穴や障害物に常に警戒を怠らないようにしましょう。転倒などの危険を回避するために、溝や小川、切り立った場所から十分離れて作業してください。
- ・斜面でエンストしたり、坂を登りきれなくなったりした時は、絶対にUターンしないでください。必ずバックで、ゆっくりと、まっすぐに下がって下さい。
- ・運転には十分な注意が必要です。安全への注意がおろそかになると、転倒など思わぬ事故となり、けがや死亡など重大な結果を招きます。運転は常に慎重に。転倒や暴走事故を防止するために以下の点にご注意ください：
 - － 作業は日中または十分な照明のもとで行う。
 - － 運転は常に慎重に。
 - － 隠れた穴などに警戒を怠らない。
 - － バックする時には安全に十分注意。
 - － サンドトラップや、溝・小川など危険な場所の近くを通らない。

- 急旋回時や斜面での旋回時は必ず減速してください。
- 斜面や土手状の場所での旋回は避ける。
- 急停止や急発進をしないこと。
- 後退から前進、あるいは前進から後退への切り替えは、完全に停止する。
- 急旋回など突然の操作は、その後の制御が不安定になりやすく事故のもとであるから行わない。
- 道路付近で作業するときや道路を横断するときは周囲の交通に注意する。常に道を譲る心掛けを。
- ・ 斜面での運転操作に十分に慣れていることが必要です。斜面での注意不足から車両を制御できなくなると、重大な事故に結びつく危険が非常に高くなりますから、集中して慎重に運転してください。
- ・ 締め切った場所でエンジンをかけるときは、必ず十分な換気を確保してください。エンジンからの排気は有毒であり、場合によっては死亡事故につながります。
- ・ 機械が落雷を受けると最悪の場合死亡事故となります。稲光が見えたり雷が聞こえるような場合には機械を運転しないで安全な場所に避難してください。
- ・ ワークマンで牽引してスローパを斜面で使用する場合には、ワークマンの荷台に227 kg程度のウェイトを搭載することをお奨めします。

保守

- ・ 機械を格納する際にはエンジンが十分冷えていることを確認し、また裸火の近くを避けて保管してください。
- ・ 裸火の近くに燃料を保管したり、屋内で燃料の抜き取りをしたりしないでください。
- ・ 平らな場所に停車してください。適切な訓練を受けていない人には絶対に機械の整備をさせないでください。
- ・ 必要に応じ、ジャッキなどを利用して機体を確実に支えてください。支えの不十分な状態で整備作業などを行うと、機体が落下する危険が大きく、重大な人身事故の原因となります。
- ・ 機器類を取り外すとき、スプリングなどの力が掛かっている場合があります。取り外しには十分注意してください。
- ・ 修理を行うときには必ずバッテリーの接続と点火プラグの接続を外しておいてくださ

- い。バッテリーの接続を外するときにはマイナスケーブルを先に外し、次にプラスケーブルを外してください。取り付けるときにはプラスケーブルから接続します。
- ・ 整備・調整・格納作業の前には、エンジンが不意に作動することのないよう、必ずキーを抜き取っておいてください。
- ・ 火災防止のため、エンジンの周囲に、余分なグリス、草や木の葉、ホコリなどが溜まらないようご注意ください。高温のエンジンに水をかけたり、電装部に水を掛けたりしないでください。
- ・ ボルト、ナット、ネジ類は十分に締めつけ、常に機械全体の安全を心掛けてください。チョッパー・シャフトのベアリングの取り付けボルトやナットが所定のトルクで締め付けられているか、頻繁に点検してください。
- ・ エンジンを回転させながら調整を行わなければならない時は、手足や頭や衣服をチョッパーやその他の可動部に近づけないように十分ご注意ください。
- ・ ガバナの設定を変えてエンジンの回転数を上げないでください。Toro 正規代理店でタコメータによるエンジン回転数検査を受け、安全性と精度を確認しておきましょう。
- ・ オイルの点検や補充は、必ずエンジンを停止した状態で行ってください。
- ・ 可動部に手足を近づけないよう注意してください。エンジンを駆動させたままで調整を行うのは可能な限り避けてください。
- ・ バッテリーの充電は、火花や火気のない換気の良い場所で行ってください。バッテリーと充電器の接続 や切り離しを行うときは、充電器をコンセントから抜いておいてください。また、安全な服装を心がけ、工具は確実に絶縁されたものを使ってください。
- ・ 各部品が良好な状態にあり、ボルトナット類が十分にしまっているか常に点検してください。擦り切れたり破損したりしたステッカーは貼り替えてください。
- ・ Toro が認可していないアタッチメントは使用しないでください。認可されていないアタッチメントを御使用になると製品保証を受けられなくなる場合があります。
- ・ 高圧で噴出する作動油は皮膚を貫通し、身体に重大な損傷を引き起こします。油圧のピンホール・リークやノズルからは作動油が高圧で噴出しているので、絶対に手などを近づけない。リークの点検には新聞紙やボール紙を使う。万一、油圧オイルが体内に入った場合には、この種の労働災害に経

験のある施設で数時間以内に外科手術を受けないと壊疽（えそ）を起こします。

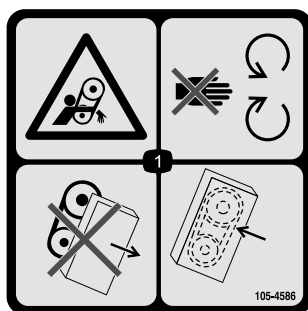
- ・ このマニュアルに記載されている以外の保守整備作業は行わないでください。大がかりな修理が必要になった時や補助が必要な時は、Toro 正規代理店にご相談ください。
- ・ 油圧系統のラインコネクタは頻繁に点検してください。油圧を掛ける前に、油圧ラインの接続やホースの状態を確認してください。
- ・ いつも最高の性能を維持するために、必ず Toro の純正部品をご使用ください。他

社の部品やアクセサリを使用すると危険な場合があります。この装置の改造を行うと、機械の挙動や性能、耐久性などが変化し、そのために事故が起きる可能性があります。また、そのような使い方をすると弊社の製品保証が適用されなくなる恐れがあります。

安全ラベルと指示ラベル

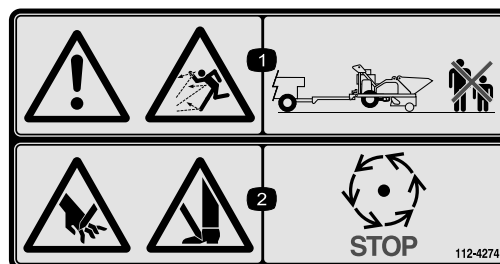


以下のラベルや指示は危険な個所の見やすい部分に貼付してあります。読めなくなったものは必ず新しいものに貼り替えてください。



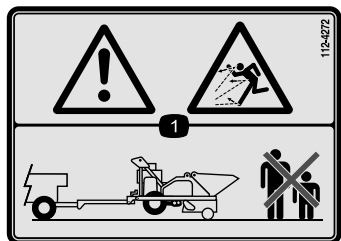
105-4586

1. 巻き込まれる危険 — 可動部に近づかないこと。シールドやガードを外したままで運転しないこと；正しく取り付けて運転すること。



112-4274

1. 警告：異物が飛び出して人に当たる危険 — 人を近づけないこと。
2. 手足や指の切断の危険 — 可動部が完全に停止するのを待つこと



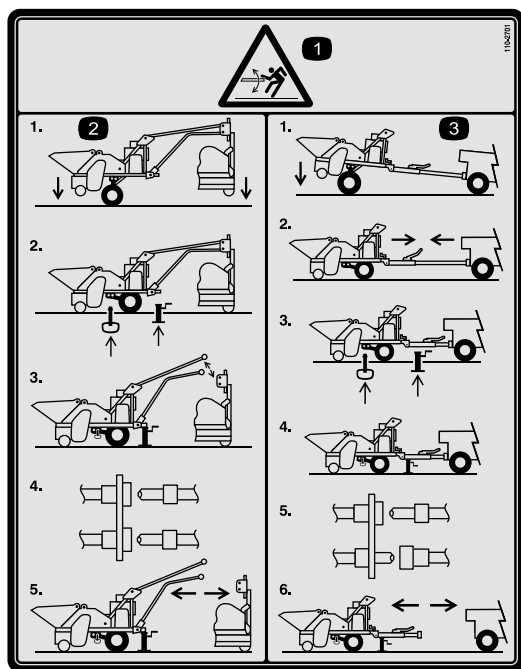
112-4272

1. 警告：異物が飛び出して人に当たる危険 — 人を近づけないこと。

CALIFORNIA SPARK ARRESTER WARNING

Operation of this equipment may create sparks that can start fires around dry vegetation. A spark arrester may be required. The operator should contact local fire agencies for laws or regulations relating to fire prevention requirements. 117-2718

117-2718



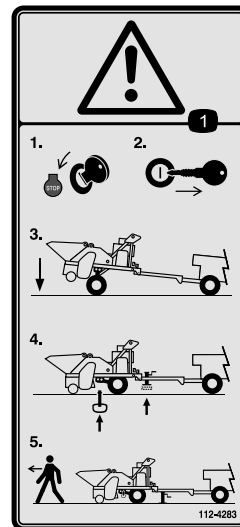
110-2701

1. 警告 — 力が掛かっていて危険。
2. エアレータからの切り離し手順：プロセッサとエアレータを地面まで降下させ、格納保管用ピンを前穴に取り付け、ジャッキ・スタンドで機体を支え、エアレータとのリンク装置を解除し、油圧ホースの接続を外す。
3. 牽引車両からの切り離し手順：プロセッサを地面まで降下させ、トングを縮め、格納保管用ピンを前穴に取り付け、ジャッキ・スタンドで機体を支え、牽引車両とのリンク装置を解除し、油圧ホースの接続を外す。



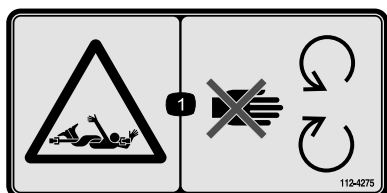
112-4280

1. 警告 — 可動部に近づかないこと。



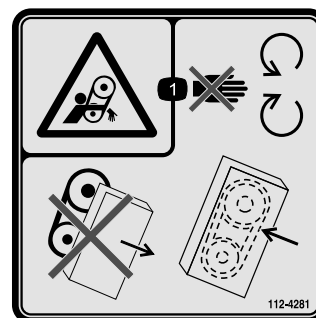
112-4283

1. 警告 — マシンから離れる時には、エンジンを停止させ、キーを抜き取り、マシンを地面におろし、格納保管用ピンを前穴に取り付け、ジャッキ・スタンドで機体を支えること。



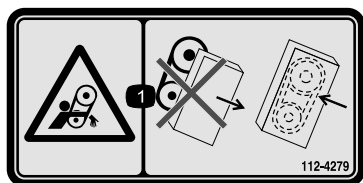
112-4275

1. 巻き込まれる危険：シャフト — 可動部に近づかないこと。



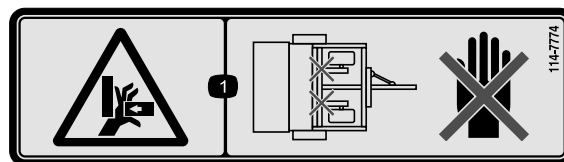
112-4281

1. 巻き込まれる危険 — 可動部に近づかないこと；ガード類を外したままでは運転しないこと；必ず全部のガードを正しく取り付けて運転すること。



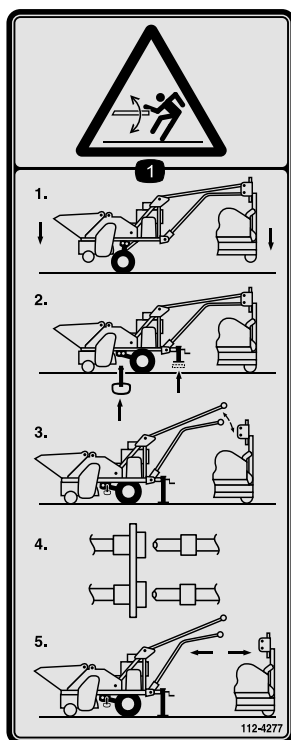
112-4279

1. 巻き込まれる危険 — ガードを正しく取り付けて使用すること。



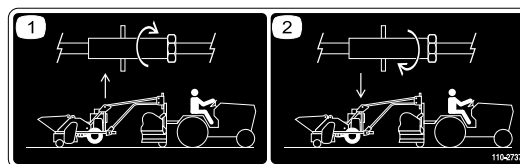
114-7774

1. 手を押しつぶされる危険 — 挟まれる恐れあり；手を近づけないこと。



112-4277

1. 力が掛かっていて危険：エアレータから切り離すときにはプロセッサとエアレータを地面まで降下させ、格納保管用ピンを前穴に取り付け、ジャッキ・スタンドで機体を支え、エアレータとのリンク装置を解除し、油圧ホースの接続を外す。



110-2737

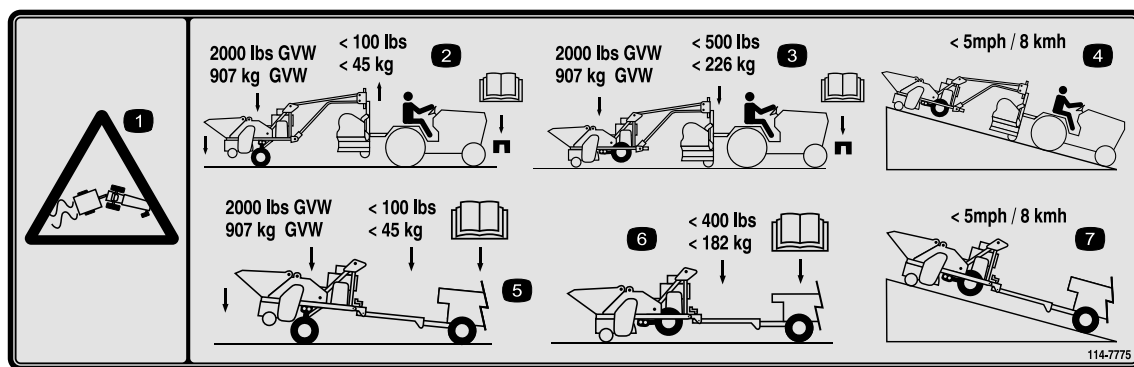
ワンパス・ヒッチ：モデル 09753

1. こちらに回すとマシンが上昇。
2. こちらに回すとマシンが下降。



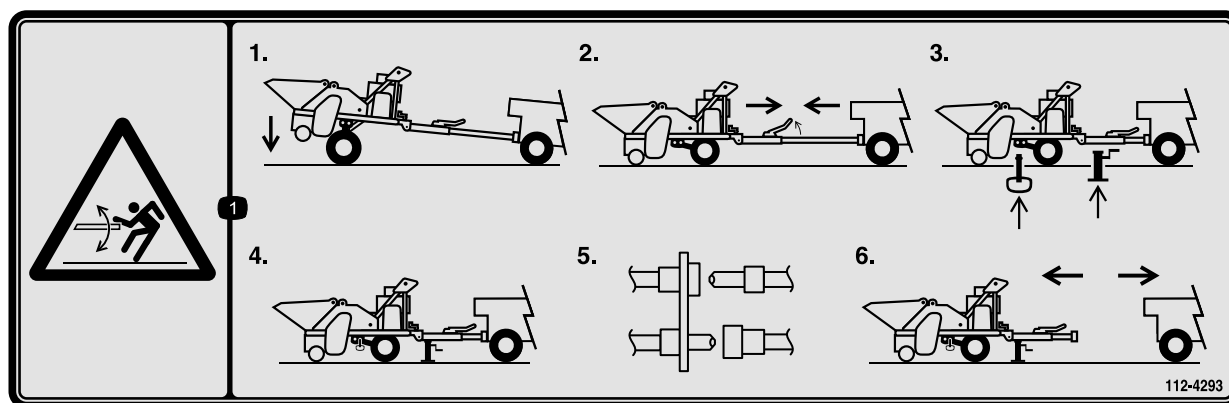
112-4276

1. 警告 — オペレーターズマニュアルを読むこと
2. 警告 — 講習を受けてから運転すること。
3. 周囲の人が転落や衝突する危険 — 人を乗せないこと。
4. 警告 — 可動部に近づかないこと；ガード類を外したままで運転しないこと；必ず全部のガードを正しく取り付けて運転すること。
5. 警告 — スイーパーのブラシに手足を近づけないこと
6. 警告 — 周囲に人を近づけないこと。
7. 警告：移動走行時の最大速度が 24 km/h を超えないようにすること。



114-7775

1. 警告 — スリップや暴走の危険。
2. エアレータに接続して牽引されている状態では、コア・プロセッサの重量は 907 kg となり、トンゲ重量がマイナス 45 kg 程度になる可能性がある；トラクタのオペレーターズマニュアルを参照して適切なウェイトを搭載すること。
3. エアレータに接続して作業中の状態では、車両全重量は 907 kg となり、トンゲ重量がプラス 227 kg 程度になる可能性がある；トラクタのオペレーターズマニュアルを参照して適切なウェイトを搭載すること。
4. コア・プロセッサをエアレータに接続して使用している時は、斜面での走行速度を 8 km/h 以下とすること。
5. 牽引用車両に接続して作業中の状態では、車両全重量は 907 kg となり、トンゲ重量がプラス 45 kg 程度になる可能性がある；オペレーターズマニュアルを参照して適切なウェイトを搭載すること。
6. 牽引用車両に接続した状態では、トンゲ重量がプラス 181 kg 程度になる可能性がある；牽引用車両のオペレーターズマニュアルを参照して適切なウェイトを搭載すること。
7. コア・プロセッサを車両に直接接続して使用している時は、斜面での走行速度を 8 km/h 以下とすること。



112-4293

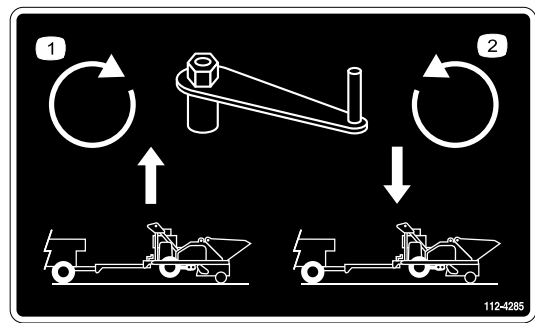
1. 力が掛かっていて危険：エアレータから切り離すときにはプロセッサを地面まで降下させ、牽引車両をプロセッサに近づけてテンションをゆるめ、格納保管用ピンを前穴に取り付け、ジャッキ・スタンドで機体を支え、牽引車両（ワークマン）とのリンク装置を解除し、油圧ホースの接続を外す。



115-2999

牽引ヒッチ：モデル 09750

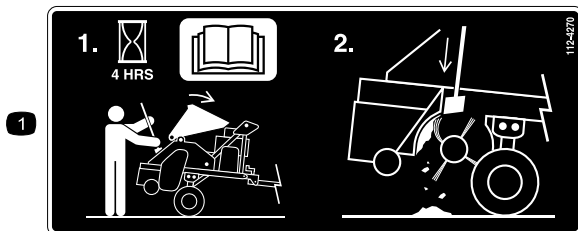
1. 手を押しつぶされる危険 — 挟まれる恐れあり；手を近づけないこと。



112-4285

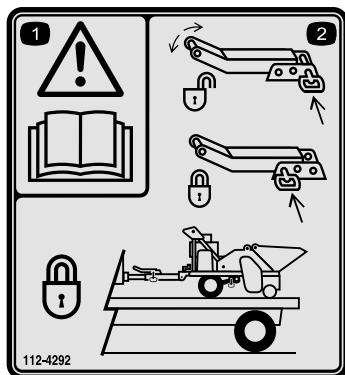
牽引ヒッチ：モデル 09750

1. クランクを右に回すと上昇。
2. クランクを左に回すと下降。



112-4270

1. 4運転時間ごとにブラシ・ハウジングを点検すること；オペレーターズマニュアルを読むこと；ブラシ・ハウジングの清掃はブラシ・カバーを上げて行う。



112-4292

牽引ヒッチ：モデル 09750

1. 警告 — オペレーターズマニュアルを読むこと
2. アームからピンを引き抜くと牽引ヒッチのロックが解除される；アームにピンを差し込むと牽引ヒッチがロックされる；移動走行時には必ずヒッチをロックすること。

組み立て

付属部品

すべての部品がそろっているか、下の表で確認してください。

手順	内容	数量	用途
1	電解液（別途入手）	必要に応じて	バッテリーを充電します
2	ワセリン（別途入手）	必要に応じて	バッテリーを取り付けます
3	ジャッキ・スタンド ジャッキ・スタンド・チューブ	1 1	ジャッキ・スタンドを取り付けます
5	ヒッチ・ピン（ワンパス・ヒッチの付属品） リンチ・ピン（ワンパス・ヒッチの付属品） ヒッチ・ピン（ワンパス・ヒッチの付属品） リンチ・ピン（ワンパス・ヒッチの付属品） ケーブル・タイ	1 1 2 2 5	コア・プロセッサを牽引車両に取り付けます
6	必要なパーツはありません。	－	コア・プロセッサを牽引車両から切り離します
7	ヒッチ・ピン（牽引ヒッチの付属品） リンチ・ピン（牽引ヒッチの付属品） ケーブル・タイ	1 1 12	コア・プロセッサをワークマンへ取り付けます
8	必要なパーツはありません。	－	コア・プロセッサをワークマンから切り離します
9	必要なパーツはありません。	－	ブラシの高さを調整します
10	必要なパーツはありません。	－	コア・プロセッサの水平調整を行います

その他の付属品

内容	数量	用途
ベルト張り工具	1	ベルトに張りを掛けるのに使用します
六角レンチとトルク・ゲージ	1	ベアリングの調整に使用します
オペレーターズマニュアル	1	ご使用前にお読みください。
エンジンマニュアル	1	エンジンの参考資料です
パーツカタログ	1	パーツ番号を調べるための資料です
認証証明書	1	CE 規格に適合していることを証明する書類です
オペレータのためのトレーニング資料	1	ご使用前にご覧ください。

重要 ワークマンなどの作業用車両（牽引用車両）のための注意事項については、「製品の概要」の項を参照してください。

1

バッテリーを取り出し、電解液を入れて充電する

この作業に必要なパーツ

必要に応じて	電解液（別途入手）
--------	-----------

手順

1. バッテリーに液が入っていない場合には、比重 1.260 のバッテリー液を購入してバッテリーの各セルに入れてください。

⚠ 危険

電解液には触れると火傷を起こす劇薬である硫酸が含まれている。

- ・ 電解液を飲まないこと。また、電解液を皮膚や目や衣服に付けないよう十分注意すること。安全ゴーグルとゴム手袋で目と手を保護すること。
- ・ 皮膚に付いた場合にすぐに洗浄できるよう、必ず十分な量の真水を用意しておくこと。

警告

カリフォルニア州
第65号決議による警告

バッテリーの電極部や端子などの部分には鉛や鉛含有物質が含まれており、カリフォルニア州では、これらの物質が癌や先天性異常の原因となるとされている。
取り扱い後は手を洗うこと。

2. バッテリー・カバーをバッテリー・ボックスに固定しているベルト（ストラップ）を外す（図 3）。

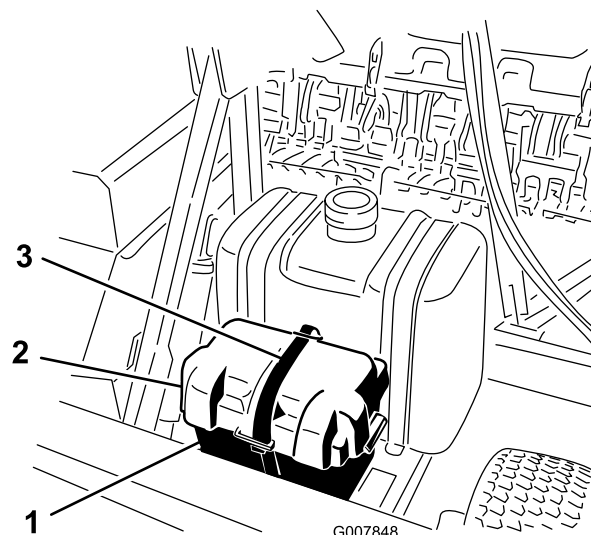


図 3

1. バッテリー・ボックス
2. バッテリー・カバー
3. ストラップ

3. カバーを外し、バッテリー・ボックスからバッテリーを取り出す。
4. バッテリーの上部をきれいに拭い、キャップを取り外す（図 4）。

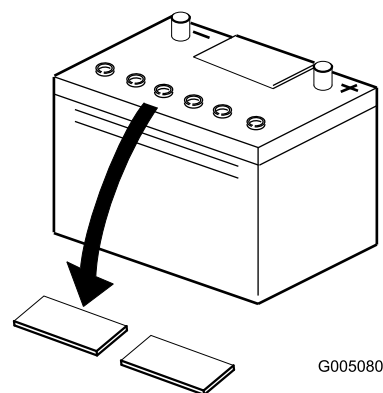


図 4

5. 各セルに慎重に電解液を満たす。電極板が6 mm程度水没するぐらいが適当（図 5）。

2

バッテリーを取り付ける

この作業に必要なパーツ

必要に応じて	ワセリン(別途入手)
--------	------------

手順

1. 端子を後ろ側に向けてバッテリーをバッテリー・ボックスに入れる。

⚠ 警告

バッテリーの端子に金属製品や機体の金属部分が触れるとショートを起こして火花が発生する。それによって水素ガスが爆発を起こし人身事故に至る恐れがある。

- ・ バッテリーの取り外しや取り付けを行うときには、端子と金属を接触させないように注意する。
- ・ バッテリーの端子と金属を接触させない。

2. 黒いケーブル（－）をバッテリーの（－）端子に取り付ける。

⚠ 警告

バッテリー・ケーブルの配線ルートが不適切であると機体を損傷し、ケーブルがショートを起こして火花が発生する。それによって水素ガスが爆発を起こし人身事故に至る恐れがある。

- ・ ケーブルを取り外す時は、必ずマイナス（黒）ケーブルから取り外し、次にプラス（赤）ケーブルを外す。
- ・ ケーブルを取り付ける時は、必ずプラス（赤）ケーブルから取り付け、それからマイナス（黒）ケーブルを取り付ける。

3. プラス・ケーブル（赤いケーブル）をバッテリーのプラス（＋）端子に取り付ける。
4. 腐食防止のため、端子と固定金具にワセリンなどを塗布する。
5. バッテリー・カバーを取り付け、ストラップで固定する。

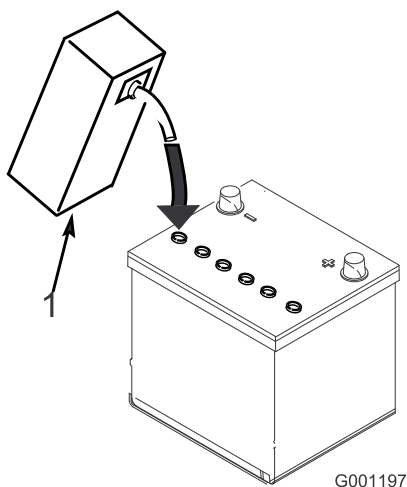


図 5

G001197

1. 電解液

重要 バッテリー液を入れすぎないようにしてください。バッテリー液があふれ出て他の部分に触れると激しい腐食を起こします。

6. 通気キャップを取り付ける。
7. 充電器に接続し、充電電流を 3～4 A にセットする（図 6）。3～4 A で 4～8 時間充電する。

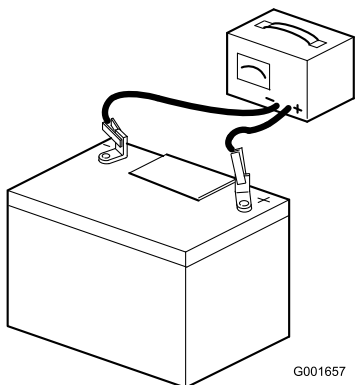


図 6

G001657

⚠ 警告

充電中は爆発性のガスが発生する。

充電中は絶対禁煙を厳守。バッテリーに火気を近づけない。

8. 充電が終わったらチャージャをコンセントから抜き、バッテリー端子からはずす。5～10分ほど待ってから、次の手順に移る。

3

ジャッキ・スタンドを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	ジャッキ・スタンド
1	ジャッキ・スタンド・チューブ

手順

牽引バーをコア・プロセッサの前部に固定しているボルトとナットを外す（図 7）。牽引バーを取り外す。

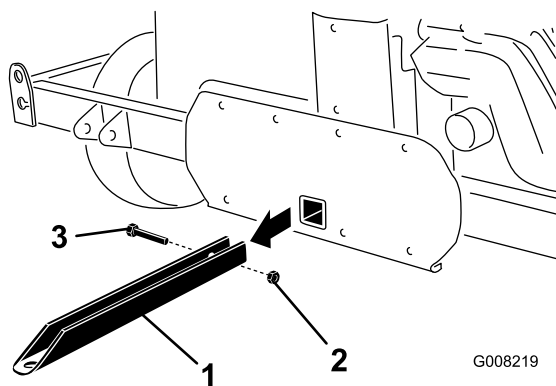
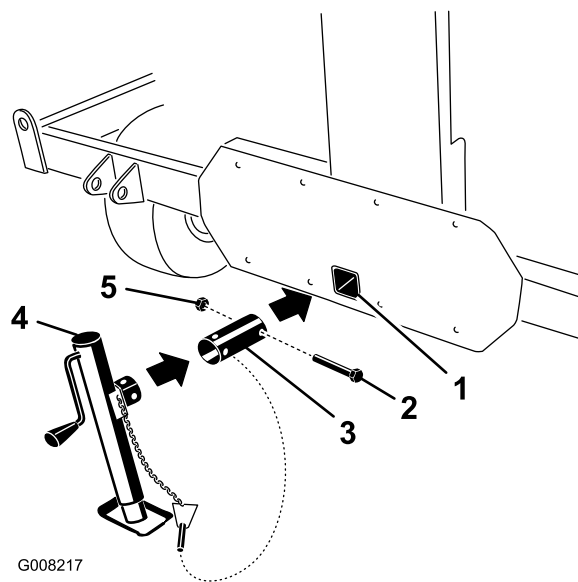


図 7

- 1. 牽引バー
- 2. ボルト
- 3. ナット

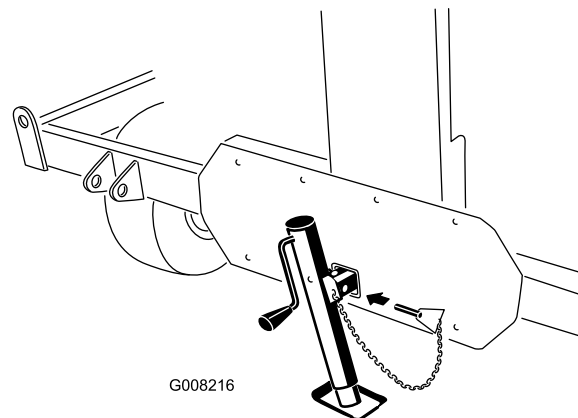


G008217

図 8

- 1. 牽引バー取り付け穴
- 2. ボルト
- 3. ジャッキ・スタンド・チューブ
- 4. ジャッキ・スタンド
- 5. ナット

- チューブを回転させてチューブの穴とコア・プロセッサの穴をそろえる。
- 先ほど外したボルトとナットを使って、チューブをコア・プロセッサに固定する（図 8）。
- ジャッキ・チューブにジャッキ・スタンドを差し込み、取り付け穴をそろえ、リンチ・ピンで固定する（図 8と図 9）。



G008216

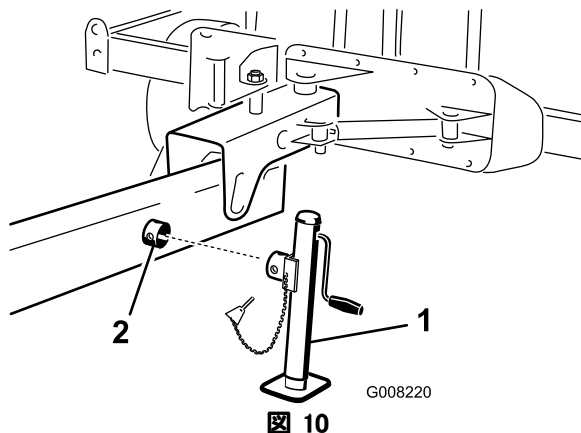
図 9

1. ワンパス作業

- 牽引バー取り付け穴にジャッキ・スタンド・チューブを差し込む（図 8）

ワークマンの牽引ヒッチで作業

1. 牽引ヒッチの側面にあるジャッキ・チューブにジャッキを取り付ける (図 10)。



1. ジャッキ・スタンド
2. ジャッキ・スタンド・チューブ

2. ジャッキ・スタンドを回して穴同士をそろえ、リンチ・ピンで固定する (図 10)。

4

格納保管用ピンの使い方

必要なパーツはありません。

手順

格納保管用ピン (図 11) はコアプロセッサの前穴または後穴に差し込みます。

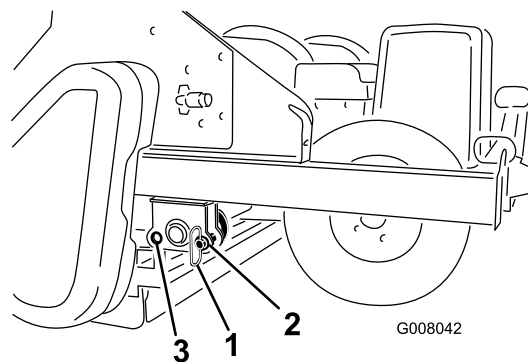
前穴位置

格納保管用ピンを前穴に差し込むと、コアプロセッサを牽引車両から安全に取り外せるようになります (図 11)。

後穴位置

コアプロセッサを牽引車両に取り付けた後は、格納保管用ピンを後穴に差し込んでおいてください (図 11)。

重要 格納保管用ピンを後穴に差し込まないと、コアプロセッサを運転することはできません。



1. 保管用ピン
2. 前穴 (牽引車両から取り外すとき)
3. 後穴 (牽引車両に取りつけたとき)

5

ワンパス用の取り付け手順

この作業に必要なパーツ

1	ヒッチ・ピン (ワンパス・ヒッチの付属品)
1	リンチ・ピン (ワンパス・ヒッチの付属品)
2	ヒッチ・ピン (ワンパス・ヒッチの付属品)
2	リンチ・ピン (ワンパス・ヒッチの付属品)
5	ケーブル・タイ

手順

コア・プロセッサをエアレータに接続するには、ワンパス・ヒッチ・キット (モデル番号 09753) を取り付ける必要があります。

1. プロセッサのブラシが、正しい刈高にセットされていることを確認する。
2. 牽引アームを持ち上げておき、積荷固定用のロープなどを使って、牽引アームのヒッチ・プレートフレーム・ヒッチのピボットに固定する (図 12)。

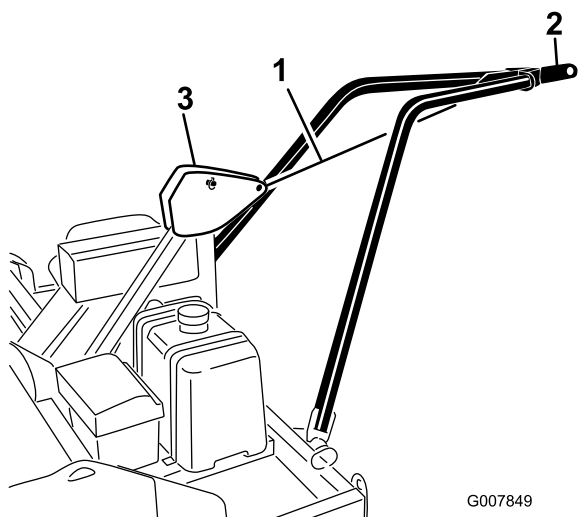


図 12

1. 積荷固定用のロープなど 3. フレーム・ヒッチのピボット
2. 牽引アームのヒッチ・プレート

3. トラクションユニットを後退させてコア・プロセッサの正面に停車する。
4. 積荷固定ロープなどで固定していた牽引アーム・ヒッチ・プレートを解き、エアレータのヒッチ・ピボットにセットする (図 13)。

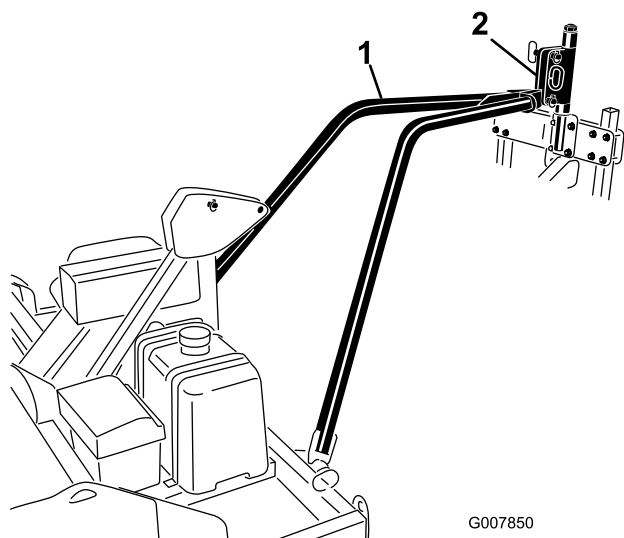


図 13

1. 牽引アームのヒッチ・プレート 2. エアレータ・ヒッチのピボット

5. 牽引アーム・ヒッチ・プレートの穴を、エアレータのヒッチ・ピボットの下側の穴に合わせる (図 14)。ヒッチ・ピンとリンチ・ピンを使って、牽引アームのヒッチ・プレートを、エアレータのヒッチ・ピボットに固定する。
6. エアレータを床面まで降下させる。

7. ヒッチ・ピンとリンチ・ピンを使って、ピッチ・コントロール・リンクを、エアレータのヒッチ・ピボットの上穴とフレーム・ヒッチ・ピボットに固定する (図 14)。

- ・ プロコア 864 および880 エアレータの場合には、コントロール・リンクをフレーム・ヒッチ・ピボットの前穴に接続する。
- ・ プロコア 660 エアレータの場合には、コントロール・リンクをフレーム・ヒッチ・ピボットの後穴に接続する。

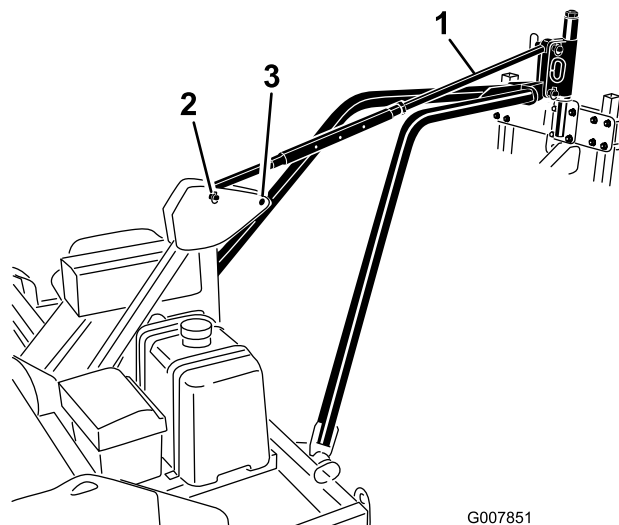


図 14

1. ピッチ・コントロール・リンク 3. 後取り付け穴 (プロコア 660 エアレータの場合)
2. 前取り付け穴 (プロコア 880 & 864 エアレータ)

8. 油圧ホースをトラクタ側に引き込み、クイック・カップラに接続する。油圧ホースが、プロセッサおよびトラクタに正しく接続されているのを確認すること。
9. コントロール・ハーネスを、トラクタの運転席に配置する。
10. 結束ひもを使って、油圧ホースとワイヤ・ハーネスを牽引アームに固定する。

重要 トラクタを左右に旋回させる際に油圧ホースやコントロール・ハーネスに力がかかって接続がはずれたりホースが破損したりすることのないようにしてください。

11. コア・プロセッサを作動させ、牽引車両の油圧オイルの量を点検する。必要に応じて補給する。
12. プロセッサを使う際には、格納保管用ピンを前穴から外して後穴に差し込んでください (図 15)。

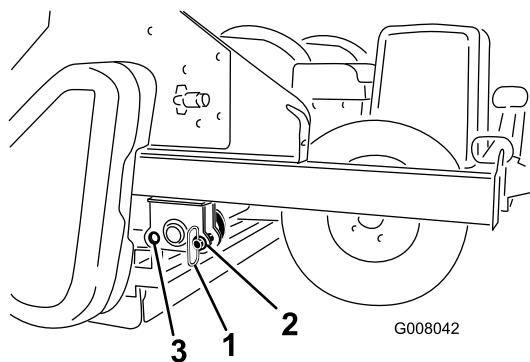


図 15

1. 保管用ピン
2. 前穴(牽引車両から取り外すとき)
3. 後穴(牽引車両に取りつけたとき)

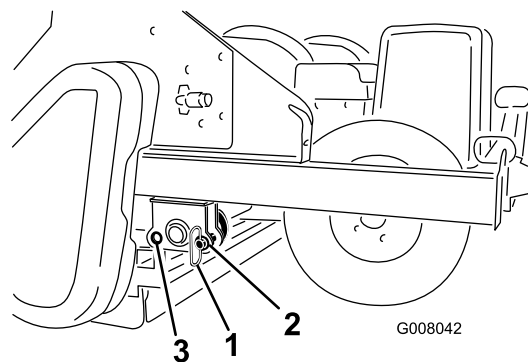


図 16

1. 保管用ピン
2. 前穴(牽引車両から取り外すとき)
3. 後穴(牽引車両に取りつけたとき)

重要 牽引車両やトラクタを変更するときには、使用している油圧オイルがコア・プロセッサで使用しているものと互換性があるかどうかを必ず確認するようにしてください。オイルに互換性がない場合には、コア・プロセッサに残っているオイルをすべて排出する必要があります。

6

牽引車両からの取り外し

必要なパーツはありません。

手順

1. 機体前部分から保管用ピンを外す（図 16）。
2. コア・プロセッサを、ゆっくりと後ローラおよびタイヤの上に降ろす。機体の前穴に格納保管用ピンを取り付ける（図 16）。
3. 保管用ピンを取り付けたら、牽引車両のエンジンを切る。

4. ジャッキを床面に降ろして、機体を支える（図 17）。

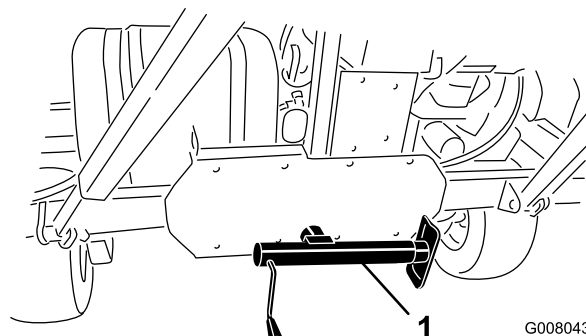


図 17

1. ジャッキ

5. 油圧昇降レバーを前後に何度か操作して油圧配管内部の圧力を逃がす。
6. トラクタから油圧ホースを取り外す。
7. 機体からリモート・コントロールを外す。
8. ホースとケーブルをハーネスに巻き取って保管する。
9. ピッチ・コントロール・リンクを固定しているリンチ・ピンとヒッチ・ピンを取り外す。ピッチ・コントロール・リンクを取り外す。
10. 牽引アームをエアレータに固定しているリンチ・ピンとヒッチ・ピンを取り外す。

注 ヒッチ・ピンを取り外す際に、エアレータをわずかに持ち上げる必要があるかもしれません。

注 ヒッチ・ピンを取り外す際に、エアレータをわずかに持ち上げる必要があるかもしれません。

7

ワークマンへの取り付け

この作業に必要なパーツ

1	ヒッチ・ピン(牽引ヒッチの付属品)
1	リンチ・ピン(牽引ヒッチの付属品)
12	ケーブル・タイ

手順

コア・プロセッサをワークマンに接続するには、牽引ヒッチ・キット (モデル番号 09750) を取り付ける必要があります。

1. ワークマンを後退させてコア・プロセッサの正面に停車する。プロセッサのブラシが、正しい刈高にセットされていることを確認する。
2. プロセッサのヒッチ・トングの高さをワークマンの牽引ヒッチと同じ高さに調整する (図 18)。コア・プロセッサのフレームが後ローラに載った状態で、フレームが地表面に対して水平になっていることが必要である。
3. ヒッチ・ピンとリンチ・ピンを使って、プロセッサのヒッチをワークマンのヒッチに接続する (図 18)。

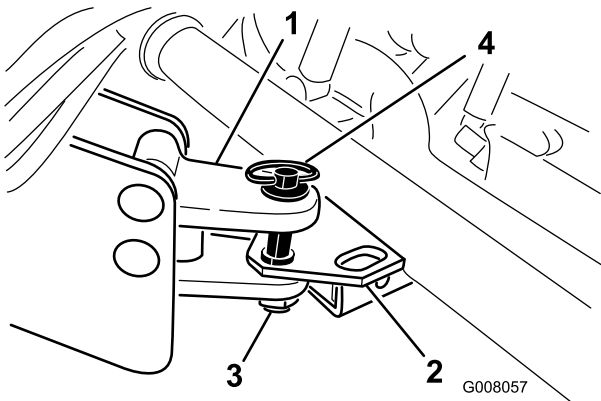
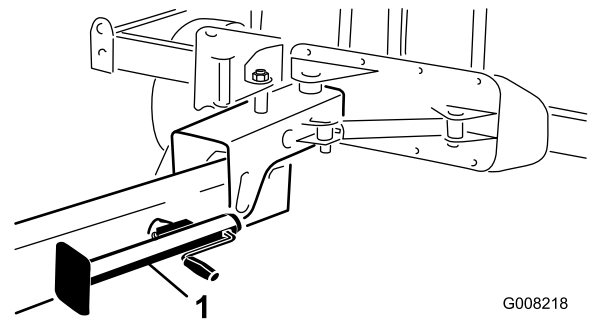


図 18

- | | |
|--------------|-----------|
| 1. プロセッサのヒッチ | 3. リンチ・ピン |
| 2. 牽引車両のヒッチ | 4. ヒッチ・ピン |



G008218

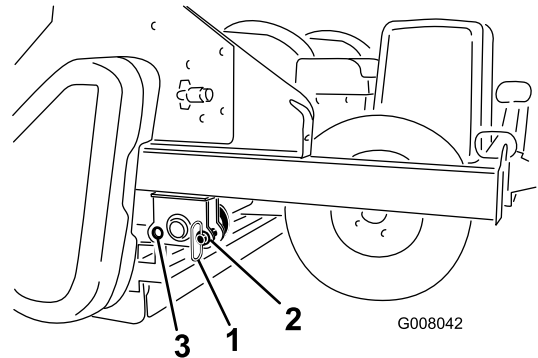
図 19

1. ジャッキ

5. 油圧ホースをワークマンのクイック・カップラに接続する。油圧ホースが、プロセッサおよびワークマンに正しく接続されているのを確認すること。
6. コントロール・ハーネスを、ワークマンの荷台を通して運転席に引き込む。

重要 作業中にホースやコントロール・ハーネスが折れ曲がったりせず自由に曲がれるようにしてください。

7. プロセッサを使う際には、格納保管用ピンを前穴から外して後穴に差し込んでください (図 20)。



G008042

図 20

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 保管用ピン | 3. 後穴(牽引車両に取りつけたとき) |
| 2. 前穴(牽引車両から取り外すとき) | |

8. 牽引ヒッチを延ばすには以下の手順で行います：
 - ・ ラッチ・ハンドルのピンが「ロック解除位置」(後ろ位置)にあることを確認する (図 21)。

4. ジャッキを上げて保管位置に固定する (図 19)。

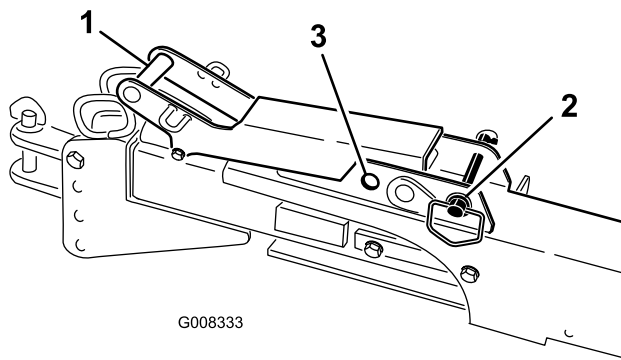


図 21

1. ラッチ・ハンドル
2. ラッチ・ハンドルのピンが解除位置にある
3. ロック位置

- ・ ラッチ・ハンドルを持ち上げる (図 22)。
- ・ ヒッチ・アセンブリがロック位置にはまり込むまで、ワークマンをゆっくりと前進させる (図 22)。

注 ヒッチが伸びた状態で、ラッチ・ハンドルのピンを前位置（ロック位置）に移動させてヒッチ・アセンブリをロックする (図 21)。

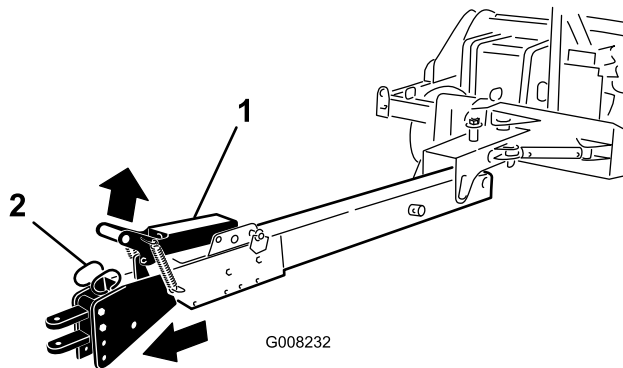


図 22

1. ラッチ・ハンドル
2. ヒッチ・アセンブリ

9. コア・プロセッサを作動させ、牽引車両の油圧オイルの量を点検する。必要に応じて補給する。

8

ワークマンからの取り外し

必要なパーツはありません。

手順

1. 機体前部分から保管用ピンを外す (図 23)。

2. コア・プロセッサを、ゆっくりと後ローラおよびタイヤの上に降ろす。機体の前穴に格納保管用ピンを取り付ける (図 23)。
3. 保管用ピンを取り付けたら、トラクタのエンジンを切る。

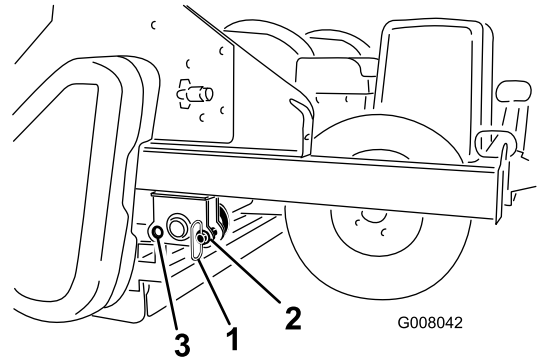


図 23

1. 保管用ピン
2. 前穴 (牽引車両から取り外すとき)
3. 後穴 (牽引車両に取りつけたとき)

4. 油圧ホースを取り外す。
5. 機体からリモート・コントロールを外す。
6. ホースとケーブルをハーネスに巻き取って保管する。
7. 牽引ヒッチを縮めるには、ラッチ・ハンドルを持ち上げ、ヒッチ・アセンブリがロック位置にはまり込むまでワークマンをゆっくりと後退させる (図 22)。
8. ジャッキを床面に降ろして、機体を支える (図 24)。

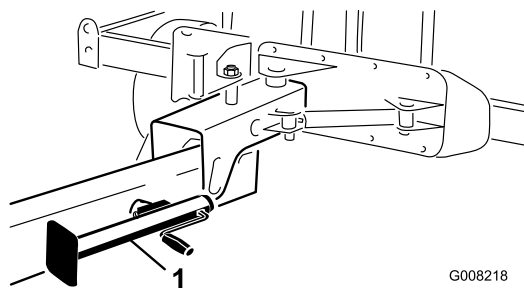


図 24

1. ジャッキ

重要 プロセッサのヒッチ・トングをワークマンのヒッチから切り離す前に、トング・アセンブリを縮めておくようにしてください。

9. プロセッサのヒッチ・トングをワークマンのヒッチに固定しているリンチ・ピンとヒッチ・ピンを取り外す。

9

ブラシの高さの調整

必要なパーツはありません。

手順

「運転操作」の章の「ブラシの高さを調整する」の項を参照してください。

10

コア・プロセッサの水平調整

必要なパーツはありません。

手順

「運転操作」の章の「コア・プロセッサの水平調整をおこなう」の項を参照してください。

製品の概要

各部の名称と操作

ブラシ／チョッパー

注 ブラシ／チョッパーを ON/OFF するための装置はありません。チョッパー／ブラシは、エンジンの回転数が上がると作動を開始し、エンジンのスロットルを下げてもアイドル回転になるまたは、エンジンが停止すると作動を停止します。

昇降・オフセット・コントロール

昇降・オフセット機能は、牽引車両の油圧装置によって作動します。牽引車両の油圧装置の操作方法については牽引車両のオペレーターズマニュアルを参照してください。

注 昇降・オフセット装置は、コアプロセッサのエンジンが ON 位置にないと作動しません。

昇降・オフセット・スイッチ

昇降・オフセット・スイッチ（図 25）は、昇降モードとオフセット・モードとの切り換えと行うスイッチです。

エンジン停止スイッチ

このスイッチを押すとエンジンが停止します（図 25）。

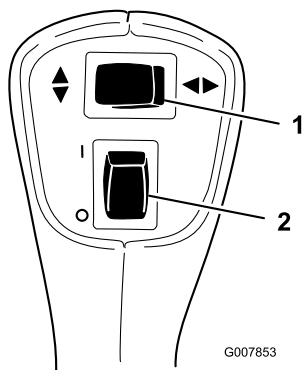


図 25

1. 昇降・オフセット・スイッチ 2. エンジン停止スイッチ

重要 緊急停止したいときには、まず、エアレータを上昇させてください。エアレータを上昇させずにトラクタを停止させると、ターフを損傷します。

チョーク・コントロール

エンジンが冷えている場合には、チョーク・レバーを引いてON位置にセットします（図 26）。

始動スイッチ

始動スイッチ（図 26）はエンジンの始動と停止を行うスイッチで、OFF, RUN, START の 3 つの位置があります。キーを右に回してSTART位置にすると、スタータ・モータが始動します。エンジンが始動したら、キーから手を離してください。キーは自動的にON位置に動きます。エンジンを停止させるには、スロットル・レバーを Slow 位置にセットし、エンジンの回転が落ちたのを確認して、キーを左に回して OFF 位置にします。

スロットル・コントロール

スロットル（図 26）はエンジンの回転速度を制御します。Fast 側へ倒すとエンジンの速度が上昇します。SLOW 側へ倒すとエンジンの速度が低下します。エンジンは常に全開で使用してください。

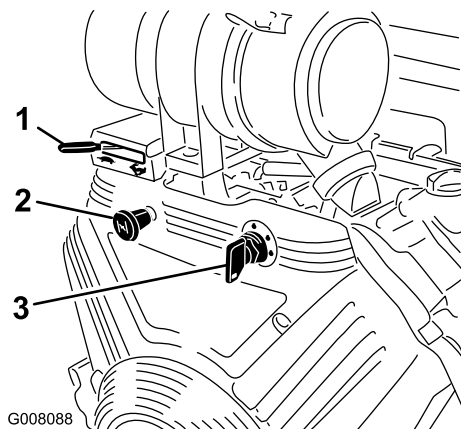


図 26

- 1. スロットル・コントロール
- 2. チョーク・コントロール
- 3. 始動スイッチ

アワー・メータ

アワー・メータ（図 27）は、本機の積算運転時間を表示します。

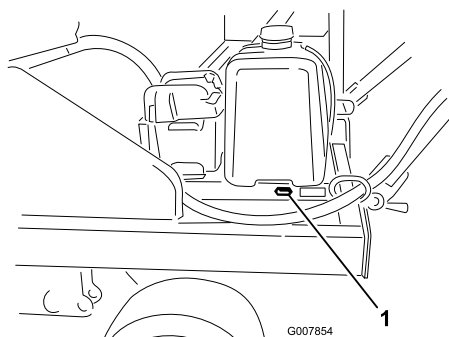


図 27

- 1. アワー・メータ

仕様

注 Specifications and design are subject to change without notice.

全幅:	88 インチ (224 cm)
ブラシ幅	70 インチ (178 cm)
チョップパー幅	70 インチ (178 cm)
全長(牽引ヒッチを含まず)	70 インチ (178 cm)
全長(3点ヒッチを含む)	133 インチ (338 cm)
全長(オフセット・ヒッチを含む)	159 インチ (404 cm)
移動走行状態の地上高	12 インチ (30 cm)
ホイールベース	69 インチ (175 cm)
純重量	1990 lb. (903 Kg)

ワーカーなどの作業用車両(牽引用車両)のための注意事項

- ・ プロコア・コアプロセッサは、油圧装置（圧力 140 kg, 流量 27~30 リットル毎分）を装備している車両であれば、大抵の車両で牽引することが可能です：ただし、牽引・制動性能（ブレーキ）として 907 kg のトレーラを牽引バーにて牽引できる車両であることが必要です。牽引運転の手順や注意事項については、トラクタ（牽引用車両）のマニュアルを参照してください。
- ・ ワーカーで牽引する場合には、リモート油圧装置（圧力 140 kg, 流量 12~15 リットル毎分）およびヘビーデューティ牽引バー（モデル 44212 または 44213）を装備していることが必要です。（傾斜や凹凸のあるアプローチやグリーンで使用する場合には、四輪駆動モデルが最も適しています。）また、ワーカーの荷台部分に、227 kg のウェイトを搭載することをお奨めします。

ト：モデル 44212、またはヘビー・デューティフレーム牽引バー：モデル 44213。

- ・ コア・プロセッサには、トレーラ用ブレーキが装備されていません。移動走行時の最大速度は 24 km/h 以下としてください。

Attachments/Accessories

A selection of Toro approved attachments and accessories are available for use with the machine to enhance and expand its capabilities. Contact your Authorized Service Dealer or Distributor or go to www.Toro.com for a list of all approved attachments and accessories.

牽引用車両	最小 GPM	最大 GPM	リリーフ圧力
ワーカー作業車	3	4	2000 psi (140 kg/cm ²)
トラクタ	7	8	2000 psi (140 kg/cm ²)

重要 ワーカーの標準ヒッチで、コア・プロセッサを牽引しないでください。標準ヒッチの規格は 680 kg までであり、これでプロセッサを牽引すると、バーが曲がったり、クロス・チューブのアクスル・サポートや後スプリング・シャックルが破損するなどの恐れがあります。かならずヘビーデューティ用のヒッチをお使いください。牽引バー・キッ

運転操作

注 Determine the left and right sides of the machine from the normal operating position.

重要 カバーについているボルトナット類は、カバーを外しても、カバーから外れません。全部のボルト類を数回転ずつゆるめてカバーが外れかけた状態にし、それから、全部のボルト類を完全にゆるめてカバーを外すようにしてください。このようにすれば、誤ってリテーナからボルトを外してしまうことはありません。

燃料を補給する

自動車用の無鉛レギュラー・ガソリンを御使用ください（ポンプ・オクタン価85 以上）。無鉛ガソリンが入手できない場合には有鉛ガソリンを使用して差し支えありません。

重要 メタノール、メタノール添加ガソリン、10%以上のエタノールを添加したガソリンなどは本機の燃料システムを損傷しますから絶対に使用しないでください。ガソリンにオイルを混合しないでください。

▲ 危険

ガソリンは非常に引火・爆発しやすい物質である。発火したり爆発したりすると、やけどや火災などを引き起こす。

- ・ 燃料補給は必ず屋外で、エンジンが冷えた状態で行う。こぼれたガソリンはふき取る。
- ・ 箱型トレーラに本機を搭載した状態では、絶対に本機への燃料補給をしてはならない。
- ・ 燃料タンク一杯に入れないこと。給油は燃料タンクの首の根元から6~13 mm程度下までとする。これは、温度が上昇して燃料は膨張したときにあふれないように空間を確保するためである。
- ・ ガソリン取り扱い中は禁煙を厳守し、火花や炎を絶対に近づけない。
- ・ 燃料は安全で汚れない認可された容器に入れ、子供の手の届かない場所で保管する。30 日分以上の買い置きは避ける。
- ・ 運転時には必ず適切な排気システムを取り付け正常な状態で使用すること。

▲ 危険

燃料を補給中、静電気による火花がガソリンに引火する危険がある。発火したり爆発したりすると、やけどや火災などを引き起こす。

- ・ ガソリン容器は車から十分に離し、地面に直接置いて給油する。
- ・ 車に乗せたままの容器にガソリンを補給しない。車両のカーペットやプラスチック製の床材などが絶縁体となって静電気の逃げ場がなくなるので危険である。
- ・ 可能であれば、機械を地面に降ろし、車輪を地面に接触させた状態で給油を行う。
- ・ 機械を車に搭載したままで給油を行わなければいけない場合には大型タンクのノズルからでなく、小型の容器から給油する。
- ・ 大型タンクのノズルから直接給油しなければならない場合には、ノズルを燃料タンクの口に常時接触させた状態で給油を行う。

▲ 警告

ガソリンの誤飲は非常に危険で、生命に関わる。また気化したガソリンに長期間ふれると身体に重篤な症状や疾病を引き起こす。

- ・ ガソリンのガスを長時間吸い込むのは避けること。
- ・ ノズルやタンク、コンディショナー注入口には顔を近づけないこと。
- ・ 目や皮膚にガソリンが付かないようにすること。

スタビライザー/コンディショナー

添加剤としてスタビライザー/コンディショナーを使用してください。この添加剤には以下のような働きがあります。

- ・ 保管中のガソリンの劣化を防止する。ただし90日間以上の保管を行う場合はガソリンタンクを空にしておくほうが望ましい。
- ・ 運転中のエンジンのクリーニングを行う。
- ・ ゴム状やニス状の物質の発生を抑え、エンジンの始動をスムーズにする。

重要 エタノール、メタノールを含んだ添加剤は絶対に使用しないでください。

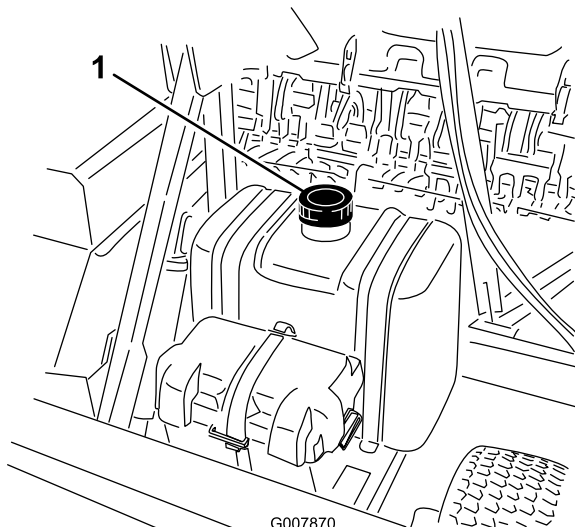
適量のスタビライザー/コンディショナーをガソリンに添加してください。

注 燃料スタビライザー/コンディショナーはガソリンが新しいうちに添加するのが一番効果的です。燃料系にワニス状の付着物が発生

するのを防ぐため、燃料スタビライザーは必ず使用してください。

燃料を補給する

1. エンジンを止め、駐車ブレーキを掛ける。
2. 各燃料タンク（図 28）のキャップの周囲をきれいに拭いてからキャップを取る。



G007870

図 28

1. 燃料タンクのキャップ

3. 給油は両方の燃料タンクに行い、各タンクの首の根元から6 mm～13 mm程度下までとする。

これは、温度が上昇して燃料は膨張したときにあふれないように空間を確保するためである。燃料タンク一杯に入れないこと。

4. 燃料タンクのキャップをしっかりとめる。
5. こぼれたガソリンはふき取る。

エンジン・オイルの量を点検する

エンジンを始動させる前に、必ずエンジン・オイルの量を点検してください。手順は「エンジン・オイルについて」を参照してください。

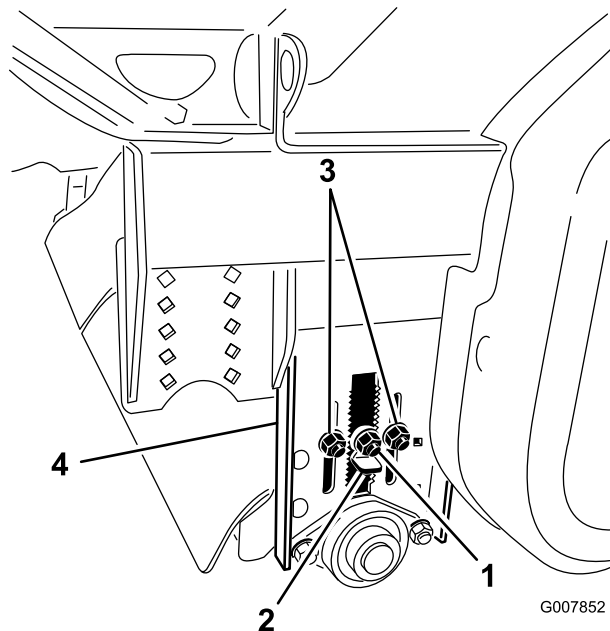
油圧作動液

重要 牽引車両やトラクタを変更するときには使用している油圧オイルがコア・プロセッサで使用しているものと互換性があるかどうかを必ず確認するようにしてください。オイルに互換性がない場合には、コア・プロセッサに残っているオイルをすべて排出する必要があります。

ブラシの高さの調整

ブラシの先端がターフの表面にごく軽く触れるが、ターフの中に入らない程度に、ブラシの高さを調整してください。ターフの中にブラシが入り込むような設定をすると、コアの処理がうまくできないばかりか、ターフを傷つける恐れがあります。

1. 平らな場所に駐車する。
2. 高さ調整キー（図 29）についているロックナットをゆるめて、キーを 15 mm 程度引き出せるようにする。



G007852

図 29

- | | |
|-----------|-----------------|
| 1. ロックナット | 3. ローラの高さ調整ナット |
| 2. 高さ調整キー | 4. ローラの高さ調整プレート |

3. ローラの高さ調整のロックナットをゆるめる（図 29）。
4. 高さ調整キーを引き出し、ローラの高さ調整プレートを動かして後ローラを適当な高さに調整する（図 29）

注 高さ調整プレートについているノッチ（刻み）1つが 6 mm（1/4 インチ）の高さ変更に対応する。

5. 調整ができればロックナットを締めて調整を固定する。
6. 同様の方法でブラシの反対側でも作業を行う。両方を同じに調整すること。

コア・プロセッサの水平調整

1. コア・プロセッサの水平調整を行う前に、ピックアップ・ブラシと後ローラの高さが、正しい刈高に調整されていることを確認する（図 30）。
ブラシが新しい時には、このマニュアルに掲載している後ローラ調整表の値をそのまま使えば、正しい刈高に設定することができる。

注 出荷時には、後ローラの地上高を 3 mm (1/8 インチ) にセットしています。

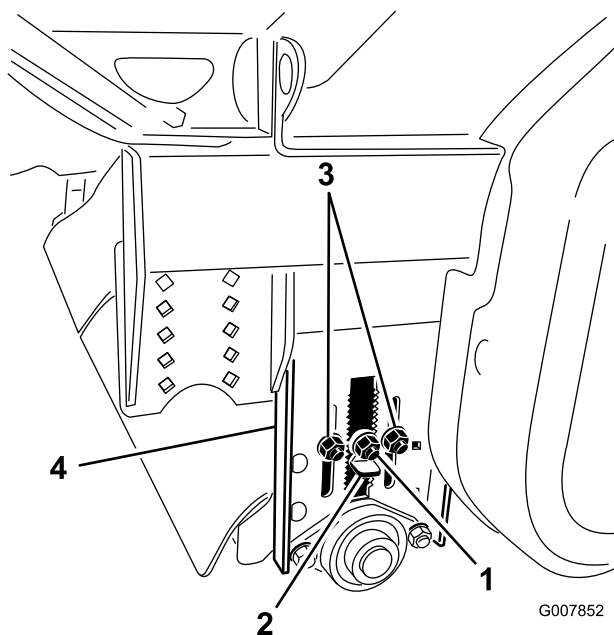


図 30

- | | |
|-----------|-----------------|
| 1. ロックナット | 3. ローラの高さ調整ナット |
| 2. 高さ調整キー | 4. ローラの高さ調整プレート |

注 付属の表では、ブラシの磨耗を 2.5 cm まで見込んでいます。磨耗が 2.5 cm を超えたら、ブラシを交換してください。

2. ブラシの高さが刈高に等しく（あるいはそれより低く）なるように、後ローラを調整する。調整方法は以下の通り：
 - ・ 調整を始める前に、硬い平らな床の上でブラシの現在の高さを確認し、後ローラの高さをどちらの方向に変更すればよいのかを確認する。
 - ・ 左右のローラ・サイド・プレートのそれぞれについている3本のボルトをゆるめる。
 - ・ 中央のナットをゆるめて調整キーを引き出せるようにする。後ローラを持ち上げた状態で、調整キーを引き出し、希望する高さにローラを動かす。左右とも同じ高さにセットすること。

注 ノッチ（刻み）1つが 6 mm (1/4 インチ) の高さ変更に対応する。

- ・ 後ローラの調整後、コア・プロセッサのフレームが地表面に対して平行になっていることを確認する。ブラシの高さをもう一度確認する。

注 メイン・フレームが地表面に対して平行でない場合には、後ローラの調整をやり直さなければいけない場合も出てきます。

後ローラの調整表		
ノッチ位置	新しいブラシの場合の高さ(インチ)	刈高(インチ)
18	3-5/8	3-3/4 ~ 3
17	3-3/8	
16	3-1/8	
15	2-7/8	3 ~ 2-1/4
14	2-5/8	
13	2-3/8	
12	2-1/8	2-1/4 ~ 1-1/2
11	1-7/8	
10	1-5/8	
9	1-3/8	1-1/2 ~ 3/4
8	1-1/8	
7	7/8	
6	5/8	3/4 ~ 0
5	3/8	
4	1/8	
3	-1/8	ブラシの磨耗を考慮
2	-3/8	
1	-5/8	
0	-7/8	

3. 昇降ホイールを上げて、プロセッサをローラの上に降ろす。
4. メイン・フレームが地表面に対して平行であることを確認する。メイン・フレームが水平であり、かつ地表面に対して平行であることを確認する。メイン・フレームが地表面に対して平行でない場合には、以下のことを行う：

ワンパス・ヒッチ

- ・ フレームの前が低い場合には、接続リンクを長くする。
- ・ フレームの前が高い場合には、接続リンクを短くする。

注 接続リンクを回しにくい場合には、コア・プロセッサの移動走行用車輪を下げて重量の一部を車輪で支えると作業がしやすくなります。

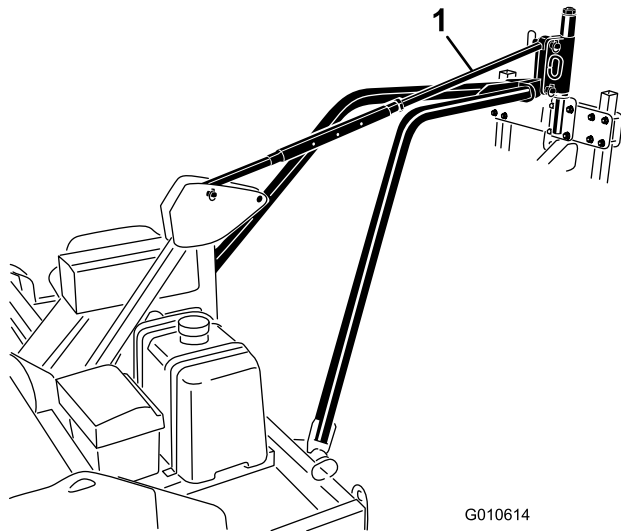


図 31

1. 接続リンク

牽引ヒッチ

- ・ フレームの前が低い場合には、水平調整クランクを右に回してフレームを高くする。
- ・ フレームの前が高い場合には、水平調整クランクを左に回してフレームを低くする。

注 水平調整クランクを回すときに、油圧ホースを引っ掛けないように注意してください。水平調整が終わったら、クランクが油圧ホースに干渉しないように、クランクを牽引ヒッチの**左側**にセットしておいてください。

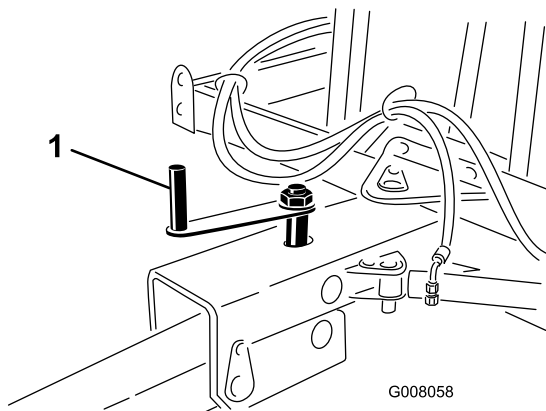


図 32

1. 水平調整クランク

注 水平調整クランクを回しにくい場合には、コア・プロセッサの移動走行用車輪を下げて重量の一部を車輪で支えると作業がしやすくなります。

現場でブラシの高さを調整する

コア・プロセッサが作業中は、フレームが地表面に対して水平、あるいはフレームの前部がわずかに高い状態になっている必要があります。ブラシがちょうどコアを拾いはじめる高さに、ブラシをセットしてください。

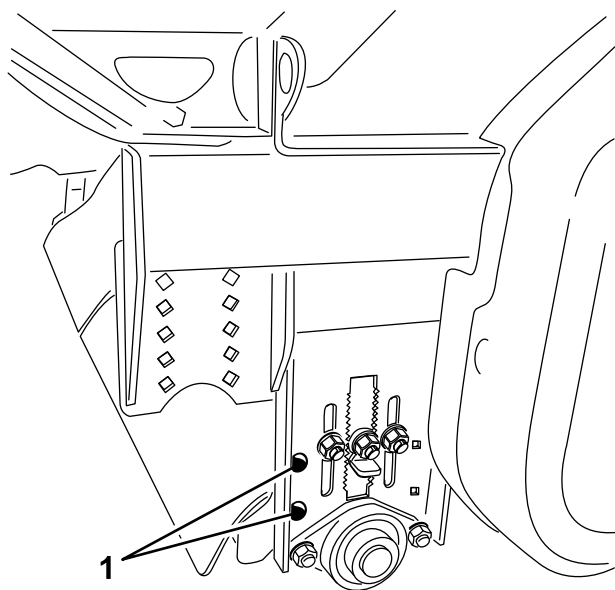
ワンパス・ヒッチの場合は、接続リンクを調整してブラシを下げ、ブラシがコアを全部拾うようにします。接続リンクを短くするとブラシの高さが低くなり、リンクを長くするとブラシが高くなります。

牽引ヒッチの場合は、水平調整クランクを回してブラシを下げ、ブラシがコアを全部拾うようにします。調整クランクを左に回すとブラシの高さが低くなり、右に回すとブラシが高くなります。

注 ブラシを下げすぎると、ブラシを不必要に磨耗させたり、ブラシやターフを破損させる恐れがありますから注意が必要です。

ローラ・スクレーパを調整する

ローラ・スクレーパ (図 33) は、スクレーパとローラとの間に 1.5 mm の隙間ができるように調整してください。ローラ・スクレーパ調整金具をゆるめ、希望の位置にスクレーパをセットして金具を元通りに締めつけます。



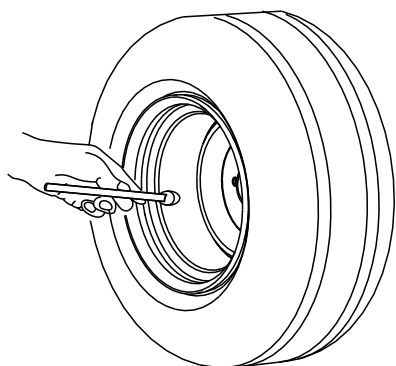
G008040

図 33

1. ローラ・スクレーパの高さ調整金具
-

タイヤ空気圧を点検する

タイヤ空気圧を点検してください（図 34）。
適正空気圧は2.5 kg/cm²です。



G001055

図 34

ホイール・ナットのトルクを点検する

整備間隔： 使用開始後最初の 8 時間

使用開始前と最初の10運転時間経過後にホイール・ナットの締め付けトルクを点検してください。

⚠ 警告

この整備を怠ると車輪の脱落や破損から人身事故につながる恐れがある。ホイール・ナットの締め付けトルク値は61～75 Nm（6.2～7.6 kg・m）。

始動手順

⚠ 警告

回転部に触れると重大な人身事故になる。

- ・ 機械が作動中は、コア・プロセッサのリールに手足を近づけないこと。
- ・ 事故防止のため、可動部に手足や衣服などを近づけないよう十分に注意してください。
- ・ カバーやシュラウドやガードは必ず取り付けて使用してください。

注 機械を始動する前に、チョッパーが自由に回転することを確認してください。

1. スロットル・レバーを SLOW と FAST の中間位置にセットする。
2. チョーク・レバーをON位置にする。

注 エンジンが暖まっているときはこの操作は不要。

3. キーを差し込んで START 位置に回してエンジンを始動する。エンジンが始動したら、キーから手を離す。エンジンが始動したら、エンジンがスムーズに回転を続けられるようにチョークを調整する。

重要 スタータ・モータを10秒間以上連続で使用するとオーバーヒートする危険があります。10秒間連続で使用したら、60秒間の休止時間をとってください。

4. スロットル・レバーを FULL 位置（エンジン全開）にセットする

注 コア・プロセッサが作動中にターフ上で走行を停止しないでください；ターフを破損する恐れがあります。

停止手順

注 ワンパス方式で作業を行う時には、必ず、エアレータを地表面から浮かせてからコアプロセッサを停止させるようにしてください。

1. コア・プロセッサを停止させる前に、1～2分間程度チョッパーを空転させて、余分な土を振り落としてください。
2. スロットル・レバーを Slow 位置にセットし、エンジンの回転が落ちたのを確認して、キーを左に回して OFF 位置にします。
3. エンジンが不意に始動するのを防止のため、キーは抜き取ってください。

重要 緊急停止する場合には、リモート・コントロールのスイッチを OFF 位置にしてください。

コア・プロセッサの運転操作

- ・ コア・プロセッサが汚れていないこと、特にブラシとチョッパー・ハウジングの内部がきれいであることを確認する。
- ・ ブラシの高さを刈高よりもわずかに高くセットする — 例：刈高が 19 mm(3/4 インチ) の場合なら、ブラシの高さを 22 mm(7/8 インチ) にセットする。
- ・ まず、コア・プロセッサを始動する。始動するときは低回転にしておく。
- ・ エンジンが始動したら、徐々に回転数を上げ、フルスロットルにする。
- ・ コア・プロセッサで作業するときは、必ずエンジンを全開にセットする。

注 ブラシやハウジングに土がついている場合には、機体前部にとりつけてあるスクレーパを使ってきれいにこそげ落とす。

ワンパス作業

- ・ 始動
トラクタのギアを入れて走行を開始する。
コア・プロセッサを地表面まで降下させる。
トラクタの PTO をつなぐ。
エアレータを地表面まで降下させる。
- ・ 停止
エアレータを上昇させる。
トラクタの PTO を解除する。
コア・プロセッサを上昇させる。
トラクタを停止させる。

注 エアレータとコア・プロセッサの上昇高さは、作業を停止できる程度にとどめてください。

注 旋回動作を行うのに十分なターフがある場合には、コア・プロセッサを上昇させなくてもよいでしょう。

ヒッチ牽引作業

推奨最大牽引速度は 時速 5 km/h です（ワークマンの場合は ロー・レンジ、1 速ギア、ハイ・アイドルでこの設定となります）。

1. コアを踏みつぶさないように、発進前にコア・プロセッサをオフセット位置にセットしておく。
2. コア・プロセッサを地表面まで降下させて処理を開始する。
3. 終点まできたら、コア・プロセッサを上昇させる。

注 旋回動作を行うのに十分なターフがある場合には、コア・プロセッサを上昇させなくてもよいでしょう。

運転のヒント

コア・プロセッサによる作業結果は、ターフの状態により様々となります。一般的に、エアレーションに適した条件の場合には、コアの処理もうまくゆきます。土壌中の水分、地表面の水分や露、土質や処理する土壌の量など様々な要素により、仕上がり状態は異なります。

処理する土壌の量は、使用するタインのサイズ、穴の深さ、穴あけの間隔などエアレータの設定によって変わってきます。細いタインで穴あけ間隔を広くとれば抜き取る土壌の量が少なくなり、その後の処理量も少なくなります。きれ

いなエアレーションを行うためには、土壌にある程度の水分が必要です。

高さ調整はさほど難しいものではありませんが、きれいに作業を行うために非常に大切な調整です。作業する場所の刈高と同じまたはそれよりもわずかに高く、ブラシをセットしてください。ワンパスの場合には、トップ・リンクを使ってブラシの高さの微調整を行うことができます；また牽引ヒッチの場合には、調整ハンドルで微調整ができます。ブラシを低くしすぎると、プロセッサの運転に大きな力が必要となるばかりか、ブラシを早く磨耗させてしまいます。一方、ブラシを高くしすぎると、全部のコアを拾わなくなってしまうです。

大事なターフで実際に作業を開始する前に、目立たない場所でブラシの最終調整とテストを行ってください。

また、実際に作業を始める前に、作業の方向や旋回場所などについて検討しておきましょう。

長く連続した「うね」を作るようにし、うねとうねとを少しオーバーラップさせるようにしてください。

注 一直線に走らせるためには、前方に目標を定めて、それに向かって走行させるのが良いでしょう。

重要 ターフを傷つける恐れがありますから、コア・プロセッサを使用中は急旋回をしないでください。

運転中に

▲ 危険

転倒や感電は重大な人身事故になる危険が極めて高い。

- ・ 急な斜面では絶対に作業しないでください。
- ・ 斜面は上り下りしながら作業するようにし、横断しながらの作業は絶対にしないこと。
- ・ 斜面では急停止・急発進しない。
- ・ 隠れて見えない穴や障害物に常に警戒を怠らないようにしましょう。安全のために、溝や段差には近づかないこと。
- ・ 万一、斜面を上りきれなくなったら、エアレータを上昇させ、バックでゆっくりと坂を下りること。Uターンしないこと。
- ・ フェアウェイやターフ一面の作業が終了するごとに、プロセッサのチップの状態を点検すること。チップが破損したりなくなっていたりしたら、交換すること。

移動走行

現場から現場への移動は以下の手順で行います：

- ・ 機体の後穴に格納保管用ピンを差し込む。
- ・ コア・プロセッサが上昇位置にあることを確認する。
- ・ 走行速度は時速 24 km/h を超えないようにする。
- ・ 牽引ヒッチを使っている場合には、コア・プロセッサをオフセット位置から通常の牽引位置（牽引車両の真後ろ）に戻し、牽引ヒッチを締め、ラッチ・ハンドルのピンをロック位置にする（図 35）。

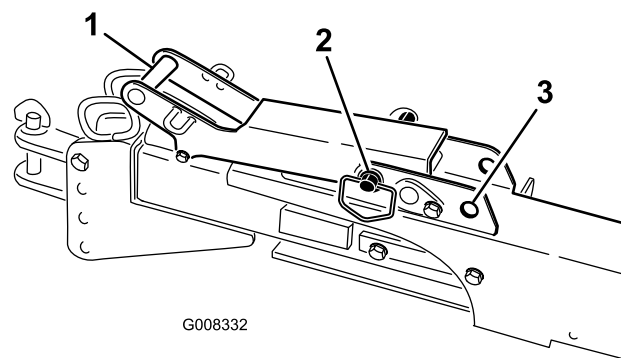


図 35

1. ラッチ・ハンドル
2. ラッチ・ハンドルのピンがロック位置にある
3. 解除位置

土壌の水分について

土壌の水分が飽和状態以上であるとコアの処理がうまくできません。土壌表面にある水分がコアと混ざり合い、後部の排出口や後ローラ・スクレーパにこびりつきます。可能であれば、水分を過剰に含まない状態のときにコアを処理するようにしてください。湿った状態で作業すると、ブラシ・ハウジングの内部に泥が堆積しますので、内部をきれいに清掃する必要があります（図 36のチャートを参照）。

この表は、土壌の水分含有量を判断する目安として利用してください。灰色部分に相当する状態のときにコアの処理を行うと、よい結果が出ないことがあります。

图 36

ブラシ/チョッパー・ハウジングの点検と清掃

整備間隔: 4運転時間ごと 土がぬれてるときには洗浄をより頻繁に行う。

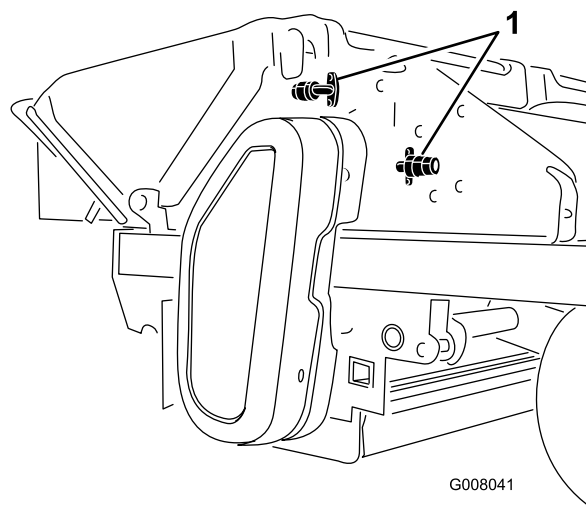
刈高が 25 mm 以上のターフや粘土質・ローム質のターフ、あるいは早朝の露がある時間帯に作業を行うと、ブラシ/チョッパー・ハウジングに泥がたまりやすくなります。ブラシ・ハウジングを適切に清掃しないと、ブラシが早期に磨耗してしまいます。適切に保守作業を行えば、ブラシは 100 運転時間程度の寿命があります。

ハウジングの清掃は以下の手順で行います：

1. プロセッサを移動走行車輪で支える。
2. 後カバーの取り付けボルトをゆるめて外す。カバーを前にはねあげるようにして開く。
3. スクレーパー（機体の前部に備え付けてある）を使って、ブラシ・ハウジング内部についた泥をきれいに取り除く。
4. カバーを閉じ、取り付けボルトで固定する。

作業後の洗浄と点検

作業が終了したら、機体を十分に清掃・洗浄してください。洗浄ポート（図 374）を使うか、チョッパー部分に水をかけて清掃します。エンジンを始動し、チョッパーが回転をするまでエンジンの速度を上げる。機体の後部（左側または右側）に立ち、その位置からホースでチョッパーに水をかけ、きれいになるまでこれを続ける。清掃が終わったら、機体各部に損傷などが発生していないか、点検してください。これらをきちんと行えば、次回もまた良い状態で使用することができます。



G008041

図 37

1. 洗浄ポート

▲ 注意

チョッパー部分を洗浄するとき、排出シュートの真後ろに立たないこと；内部から飛び出してくるものが当たって危険である。

チョッパー・チップスの点検

フェアウェイやターフ一面の作業が終了するごとに、チョッパーのチップの状態を点検し、リテーナ・ボルトが折れていたらすぐに交換してください。

注 チョッパー・チップは、岩などに当たった場合にリテーナ・ボルトが1本が折れることにより、重要部分を保護するように作られています。

折れたボルトをチョッパー・チップから取り外すには以下の手順で行います：

1. チョッパー・チップをブレードに固定している、折れていない方のボルトを外す（図 38）。チョッパー・チップをブレードから外す。

高地での使用について

標高の高い場所で使用する時には、エンジンの出力を確保するためにキャブレターのジェットの交換が必要になる場合があります。下の表を使って、必要なジェットを確認してください。高地用ジェットは、ブリグス&ストラトン社ディーラにてお求めください。

キャブレターのジェットのサイズ		
標高	左ジェット	右ジェット
標準 900 フィート (270 m)	150	156
5000 フィート (1500 m)	146	152
6500 フィート (2000 m)	144	150
9000 フィート (2750 m)	140	146

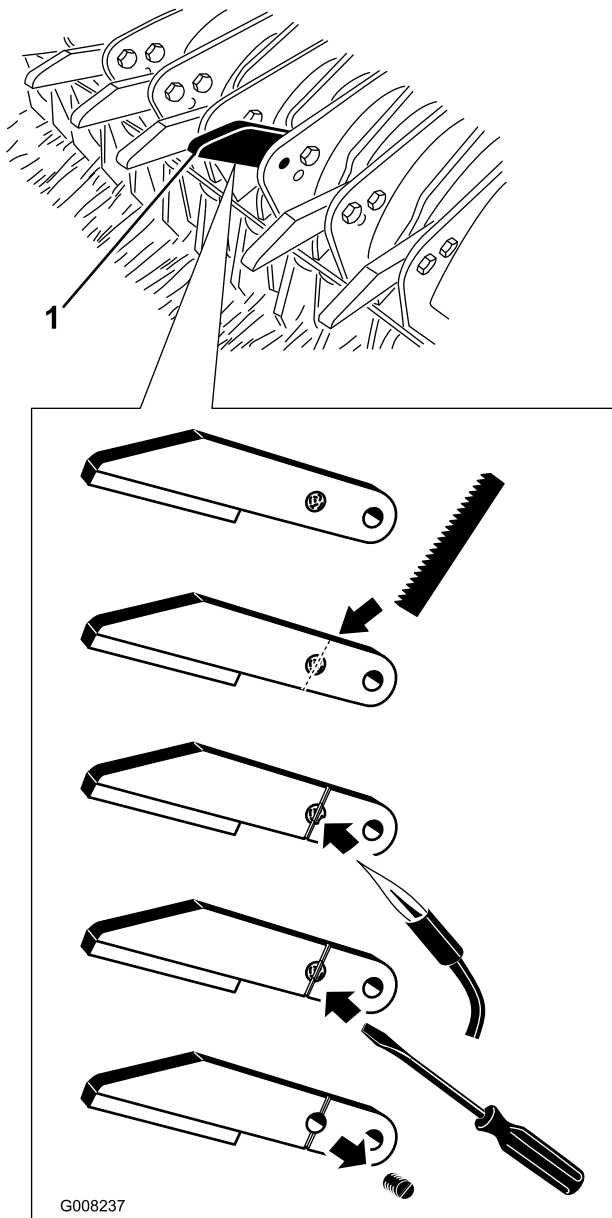


図 38

1. チョッパー・チップ

- 金ノコを使って、折れたボルトの端に、チョッパー・チップごと切り込みを入れる（図 38）。この切り込みは、マイナスドライバの刃先が入るようにしっかりと作ること。
- 切り込みができれば、折れたボルトをトーチで熱して、ついているロクタイトを柔らかくする（図 38）。
- ロクタイトが柔らかくなったら、ドライバでボルトを抜き取る（図 38）。
- 新しいチョッパー・チップの場合も中古の場合も、チョッパー・チップをブレードに取り付ける時には、新しいパッチ・ロック・ボルトを使うか、ねじ山にロクタイトを塗る。

保守

推奨される定期整備作業

整備間隔	整備手順
使用開始後最初の 8 時間	・ ホイール・ナットのトルクを点検する ・ エンジン・オイルを交換する ・ ベルトの状態と張りを点検する
使用することまたは毎日	・ エンジン・オイルを点検する ・ エンジンのスクリーンとオイル・クーラを清掃する ・ 油圧ラインとホースを点検する。 ・ チョップパー・チップを点検する ・ ブラシの磨耗状態を調べる ・ ブラシ／チョップパー・ハウジングを洗浄する
4 運転時間ごと	・ ブラシ／チョップパー・ハウジングの点検と洗浄を行う 土がぬれてるときには洗浄をより頻繁に行う。
50 運転時間ごと	・ ベアリングとブッシュのグリスアップを行う ・ ベルトの状態と張りを点検する
100 運転時間ごと	・ エンジン・オイルを交換する。 ・ バッテリー液の量を点検する ・ エンジンを清掃する
200 運転時間ごと	・ エア・フィルタを点検し、必要に応じて一次フィルタを交換する ・ オイル・フィルタを交換する。 ・ 点火プラグを点検する。
600 運転時間ごと	・ 安全エア・フィルタを交換する。 ・ 燃料フィルタを交換する。

重要 エンジンの整備に関する詳細は、付属のエンジンマニュアルを参照してください。

始業点検表

このページをコピーして使ってください。

点検項目	第 週						
	月	火	水	木	金	土	日
エンジン・オイルの量を点検							
エア・クリーナを点検							
運転操作時の異常音がないか点検する							
油圧ホースの磨耗損傷を点検。							
オイル漏れなど。							
タイヤ空気圧を点検する。							
計器類の動作を点検する。							
各グリス注入部のグリスアップを行う。 ¹							
塗装傷のタッチアップ							

1. 水洗いした後は上記の整備間隔に関係なく直ちに、チョッパー、後ローラ、回転コーナー・ベアリングのグリスアップを行ってください。

整備前に行う作業

重要 カバーについているボルトナット類は、カバーを外しても、カバーから外れません。全部のボルト類を数回転ずつゆるめてカバーが外れかけた状態にし、それから、全部のボルト類を完全にゆるめてカバーを外すようにしてください。このようにすれば、誤ってリテーナからボルトを外してしまうことはありません。

潤滑

ベアリングとブッシュのグリスアップ

整備間隔： 50 運転時間ごと

定期的に、18ヶ所のグリス・ポイントにNo.2汎用リチウム系グリスを注入します。水洗いした後は直ちに、チョッパー、後ローラ、回転コーナー・ベアリングのグリスアップを行ってください。

1. 以下の各グリス注入部のグリスアップを行う：

- ・ 牽引フレーム、2ヶ所（図 40）
- ・ 昇降シリンダ、2ヶ所（図 39 と 図 42）
- ・ 昇降アクスル、2ヶ所（図 39）。
- ・ ジャッキ・シャフト、2ヶ所（図 42）
- ・ チョッパー・アセンブリ、2ヶ所（図 43 と 図 41）。
- ・ 回転コーナー、2ヶ所（図 43 と 図 41）
- ・ ピックアップ・ブラシ、2ヶ所（図 43 と 図 41）
- ・ 後ローラ、2ヶ所（図 41）

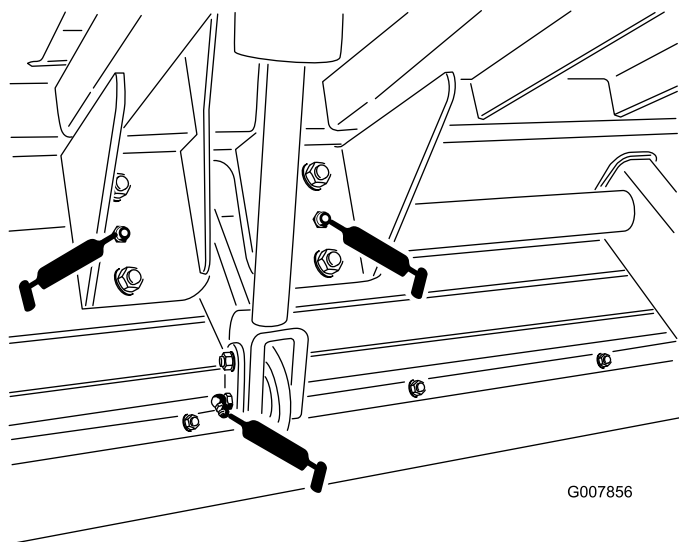


図 39

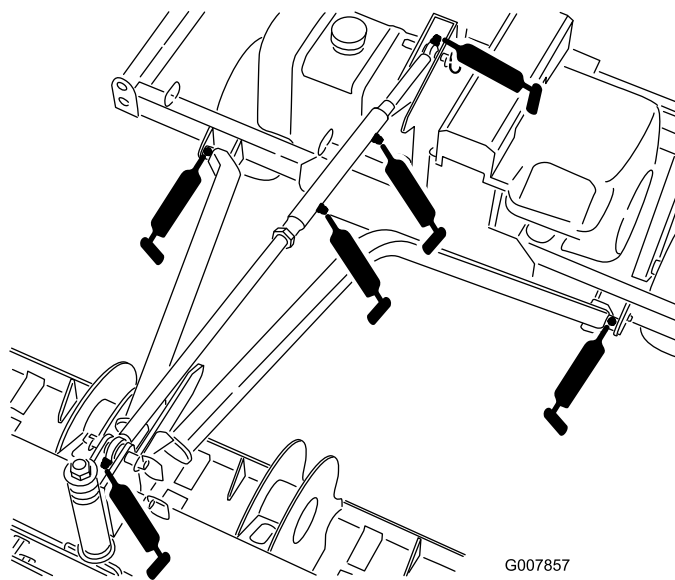


図 40

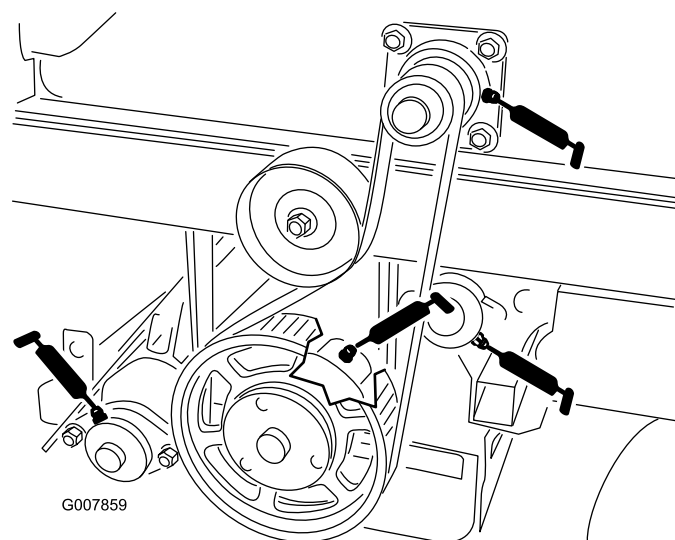


図 41

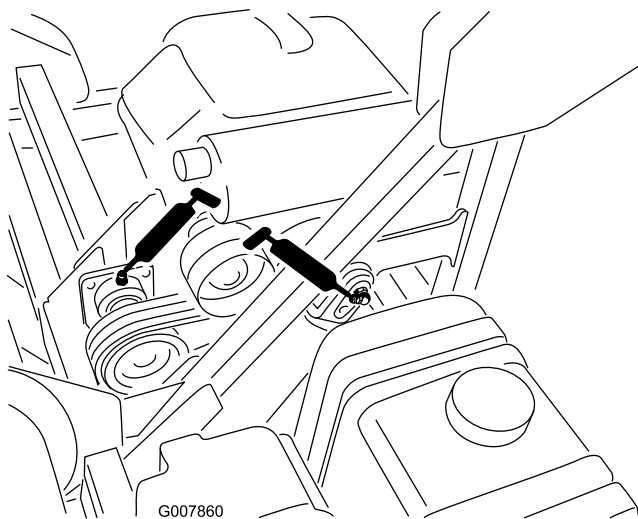


図 42

エンジンの整備

エア・クリーナの整備

エア・クリーナのハウジングに、リーク原因となる傷がないか点検してください。破損していれば交換してください。吸気部全体について、リーク、破損、ホースのゆるみなどを点検してください。

エア・クリーナの整備はインジケータ（図 44）が赤色になってから行ってください。早めに整備を行っても意味がありません。むしろフィルタを外したときにエンジン内部に異物を入れてしまう危険が大きくなります。

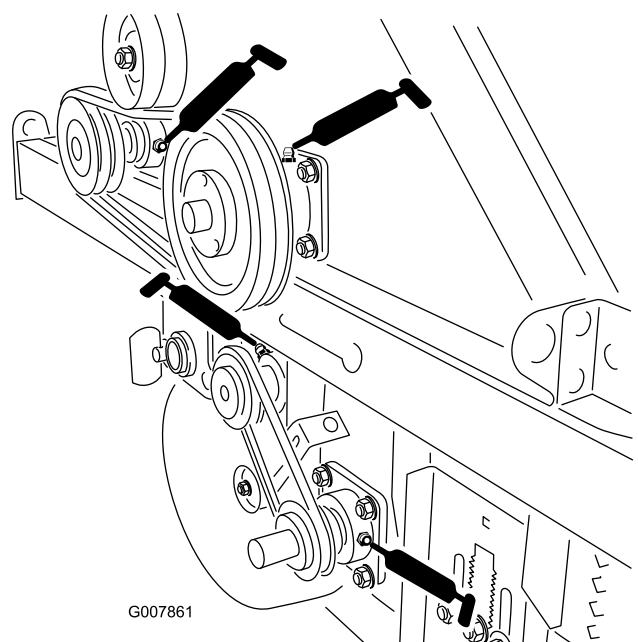


図 43

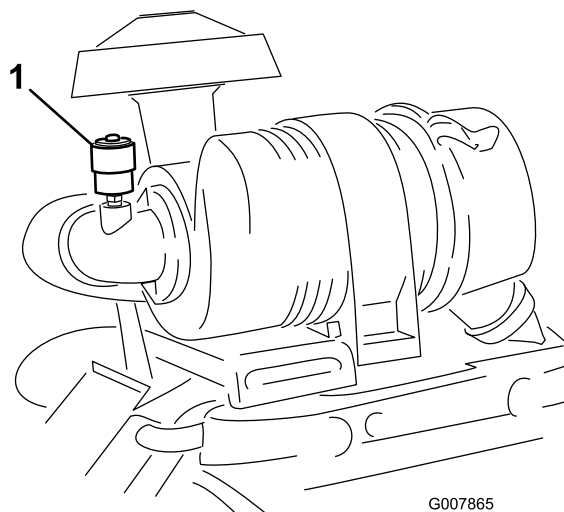


図 44

1. エア・クリーナのインジケータ

エア・フィルタの取り外し

1. エンジンを停止させ、キーを抜き取り、各部が完全に停止したのを確認してから運転位置を離れる。
2. エア・クリーナのラッチを外し、ハウジングからカバーを外す（図 45）。

2. 異物を押し込んでしまわないよう、各グリスニップルをきれいに拭く。
3. グリス・ガンでグリスを注入する。
4. はみ出したグリスはふき取る。

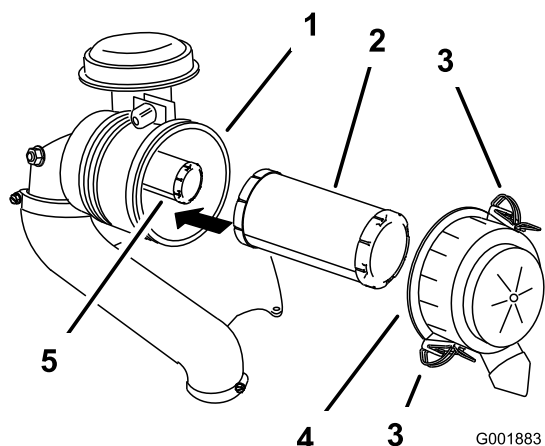


図 45

- | | |
|------------------|----------------|
| 1. エア・クリーナのハウジング | 4. エア・クリーナのカバー |
| 2. 1次フィルタ | 5. 安全フィルタ |
| 3. ラッチ | |

- カバーの内部を圧縮空気できれいに清掃する。
- 1次フィルタをゆっくり引き抜くようにしてエア・クリーナのハウジングから外す（図 45）。

注 ハウジングの側面にフィルタをぶつけないように注意すること。

- 安全フィルタは、交換するとき以外は外さない。

重要 安全フィルタは絶対に洗わないでください。安全フィルタが汚れている場合には、1次フィルタが破損しています。その場合には両方のフィルタを交換してください。

- フィルタの外側から照明を当てて1次フィルタの内側を点検し、傷などがいないか確認する。フィルタに穴があいているとその部分が明るく見える。破損しているフィルタは捨てる。

1次エア・フィルタの整備

整備間隔： 200運転時間ごと

- ・ 1次エア・フィルタが汚れている、曲がっている、または破損している場合には交換する。
- ・ 1次フィルタは清掃しないこと。

安全エア・フィルタの整備

整備間隔： 600運転時間ごと

重要 安全エア・フィルタは絶対に洗わないでください。安全エア・フィルタが汚れている場

合には、1次フィルタが破損しています。その場合には両方のフィルタを交換してください。

フィルタの取り付け

重要 エンジンを保護するため、必ず両方のエア・フィルタを取り付け、カバーをつけて運転してください。

1. 新しいフィルタの場合は出荷時に破損するなどの傷がついていないか点検する。破損しているフィルタを使用しないこと。
2. 安全フィルタを交換する場合には、十分に注意しながら、フィルタのボディに挿入する（図 45）。
3. 1次フィルタをゆっくり押し込むようにして安全フィルタの上から取り付ける（図 45）。

注 1次フィルタの外側リムをしっかりと押さえて確実に装着してください。

重要 フィルタの真ん中（柔らかい部分）を持たない。

4. カバーについている異物逃がしポートを清掃する。カバーについているゴム製のアウトレット・バルブを外し、内部を清掃して元通りに取り付ける。
5. 上下方向を確認、**up**と書いてある方を上に向けてエア・クリーナ・カバーを正しく取り付け、ラッチを掛ける（図 45）。
6. インジケータ（図 44）が赤になっている場合はリセットする。

エンジン・オイルについて

注 ホコリのひどい場所で使用する場合は、より頻繁なオイル交換が必要です。

オイルのタイプ： 洗浄性オイル（API 規格 SG, SH, SJ またはそれ以上）

クランクケースの容量： フィルタを含めて 2 リットル

粘度： 下の表を参照してください。

USE THESE SAE VISCOSITY OILS

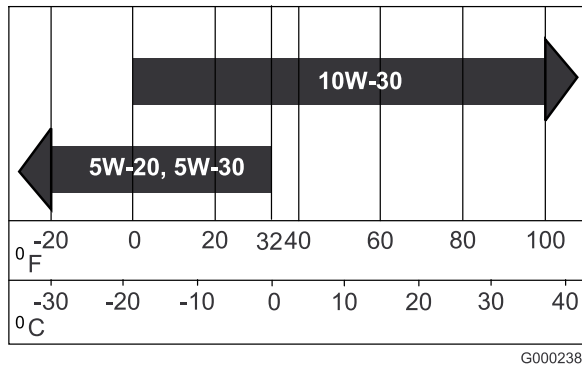


図 46

エンジン・オイルの量を点検する

整備間隔: 使用するときまたは毎日

注 エンジン・オイルを点検する最もよいタイミングは、その日の仕事を始める直前、エンジンがまだ冷えているうちです。既にエンジンを始動してしまった場合には、一旦エンジンを停止し、オイルが戻ってくるまで約 10 分間程度待ってください。油量を点検し、ディップスティックの ADD マーク以下であれば FULL マークまで補給します。入れすぎないでください。油量が ADD マークと FULL マークの間であれば補給の必要はありません。

1. 平らな場所に駐車する。
2. エンジンを止め、キーを抜き取る。
3. すべての部分が完全に停止してから運転位置を離れる。
4. 給油口からゴミが入ってエンジンを傷つけないように、ディップスティック (図 47) の周囲をウェスできれいに拭く。

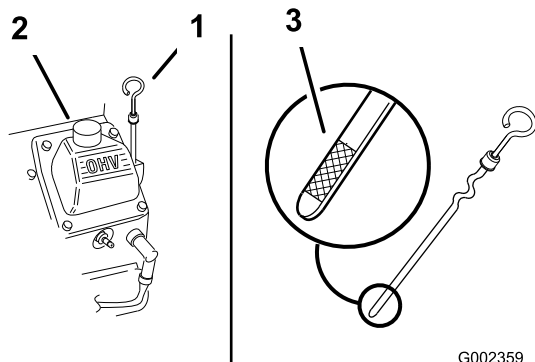


図 47

1. ディップスティック
2. 補給管

5. ディップスティック (図 47) を回して抜き取り、付いているオイルをウェスで拭きとる。

6. ディップスティックを根元まで確実に差し込む (図 47)。
7. ディップスティックを引き抜いて油量を点検する。油量が足りなければディップスティックの FULL マークまで補給管からゆっくり補給する。

重要 オイルの入れすぎは、かえってエンジンを傷めます。

エンジン・オイルの交換

整備間隔: 使用開始後最初の 8 時間

100 運転時間ごと

1. エンジンを始動し、5 分間程度運転する。これによりオイルが温まって排出しやすくなる。
2. オイルが完全に抜けるように、排出口側がやや低くなるように駐車する。
3. エンジンを停止させ、キーを抜き取り、各部が完全に停止したのを確認してから運転位置を離れる。
4. ドレンの下に廃油受けを置く (図 48)。
5. ドレン・プラグを抜き取り、排出されるオイルを容器で回収する。
6. オイルが完全に抜けたらドレン・プラグを取り付ける。

注 廃油はリサイクルセンターに持ち込むなど適切な方法で処分してください。

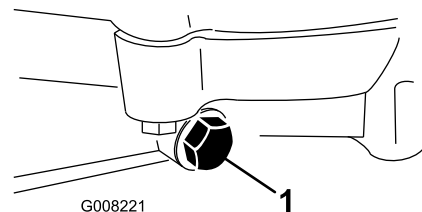


図 48

1. オイル・ドレン・プラグ

7. 補給管 (図 47) から、必要量の 80% 程度のオイルをゆっくり入れる。
8. 油量を確認する。「エンジン・オイル量の点検」を参照。
9. 残りのオイルをゆっくり足して FULL マークまで入れる。

オイル・フィルタの交換

整備間隔: 200 運転時間ごと

注 ホコリのひどい場所で使用する場合は、より頻繁なオイル・フィルタの交換が必要です。

1. エンジンからオイルを抜く。「エンジン・オイルの交換」を参照。
2. オイル・フィルタを外し、フィルタのアダプタ・ガスケットの表面をきれいに拭く(図 49)。

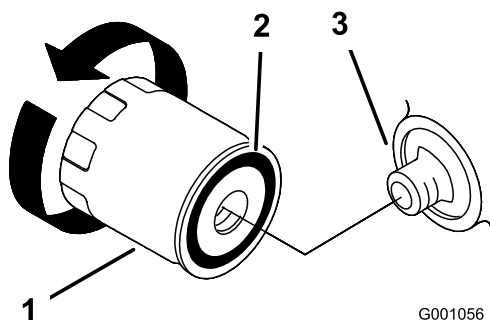


図 49

1. オイル・フィルタ
2. アダプタのガスケット
3. アダプタ

3. フィルタの中央の穴から新しいオイルを入れる。穴の内側についているネジ山のすぐ下までオイルを入れる。
4. フィルタ内部にオイルが吸収されるまで、1～2分間待つ。
5. 新しいフィルタのガスケットにオイルを薄く塗る(図 49)。
6. アダプタにフィルタを取り付け、ガスケットがアダプタに当たるまでフィルタを右に回し、そこから更に 2/3～1 回転増し締めする(図 49)。
7. クランクケースに正しい種類の新しいオイルを入れる。24ページ「エンジン・オイルについて」を参照。
8. エンジンを3分間程度運転して、エンジンを停止し、オイル・フィルタの周囲にオイル漏れがないか点検する。
9. エンジン・オイルの量を点検し、足りなければ注ぎ足す。

点火プラグの整備

取り付ける時には電極間のエア・ギャップを正しく調整しておいてください。取り付け、取り外しには必ず専用のレンチを使い、エア・ギャップの点検調整にはすきまゲージやギャップ調整工具などを使ってください。必要に応じて新しい点火プラグと交換してください。

タイプ：Champion® RC12YC, Champion® プラチナ 3071 または同等品

エア・ギャップ：0.76 mm

点火プラグの点検

整備間隔：200運転時間ごと

1. 中央の電極部(図 50)を観察する。絶縁体部がうす茶色や灰色なら適正、黒い汚れがある場合にはエア・クリーナの不良を考える。

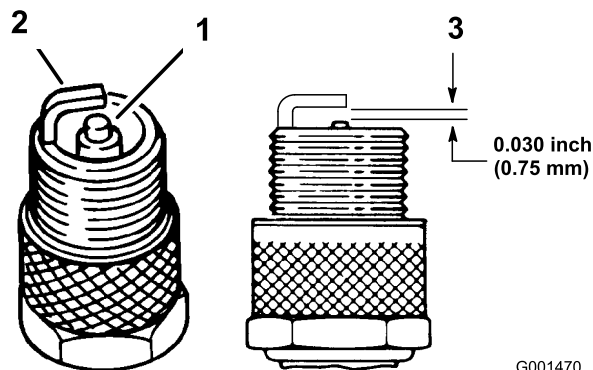


図 50

1. 中央の電極の碍子
2. 側部の電極
3. 隙間(実寸ではない)

重要 黒い汚れ、電極の磨耗、油膜、亀裂などがあれば新しいものと交換してください。

2. すきまゲージでエア・ギャップの点検を行い(図 50)、隙間の大きさが適切でなければ側面の電極を注意深く曲げて調整する(図 50)。

点火プラグの取り外し

1. エンジンを停止させ、キーを抜き取り、各部が完全に停止したのを確認してから運転位置を離れる。
2. 点火コードを取り外す(図 51)。

燃料系統の整備

燃料フィルタの交換

整備間隔: 600運転時間ごと

1. エンジンを停止させ、キーを抜き取り、各部が完全に停止したのを確認してから運転位置を離れる。
2. マシンが冷えるのを待つ。
3. 古いフィルタのクランプをゆるめてフィルタから外して脇に寄せる (図 52)。

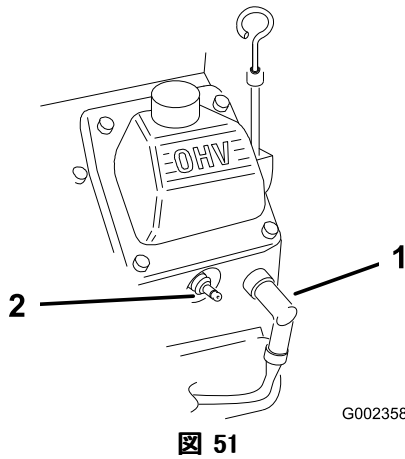


図 51

1. 点火コード
2. 点火プラグ

3. プラグを取り外した時に燃焼室内に異物が落ちないように、プラグの周囲をきれいに清掃する。
4. 点火プラグと金属ワッシャを外す。

点火プラグの取り付け

1. 点火プラグと金属ワッシャを取り付ける。取り付け前にもう一度エア・ギャップを確認する。
2. 点火プラグを24~30 N.m (2.5~3.0 kg.m) にトルク締めする。
3. 点火コードを接続する (図 50)。

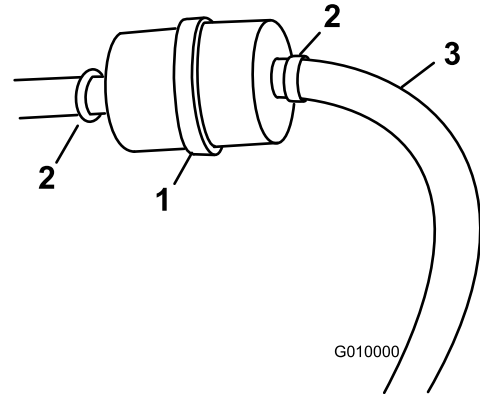


図 52

1. 燃料フィルタ
2. ホース・クランプ
3. 燃料ライン

4. ホースからフィルタを抜き取る。
5. 新しいフィルタをホースに取り付け、クランプで固定する (図 52)。

燃料タンクの整備

▲ 危険

ガソリンは非常に引火・爆発しやすい物質である。発火したり爆発したりすると、やけどや火災などを引き起こす。

- ・ エンジンが冷えてから燃料タンクからガソリンを抜き取る。この作業は必ず屋外の広い場所で行う。こぼれたガソリンはふき取る。
- ・ ガソリン取り扱い中は禁煙を厳守し、火花や炎を絶対に近づけない。

1. ガソリンが完全に抜けるよう、平らな場所に駐車する。
2. エンジンを止め、キーを抜き取る。
3. 燃料フィルタについているクランプをゆるめ、フィルタからはずす (図 52)。
4. 燃料フィルタから燃料ホースを抜き取る (図 52)。

注 落ちてくるガソリンをガソリン容器または廃油受けに受ける（図 52）。

注 燃料タンクが空になったこの時に燃料フィルタを交換するのがベストです。

5. フィルタに燃料ホースをつなぎ、クランプで固定する（図 52）。

電気系統の整備

バッテリーの手入れ

整備間隔： 100運転時間ごと

- ・ バッテリーの電解液は常に正しいレベルに維持し、バッテリー上部を常にきれいにしておいてください。高温環境下で保管すると、涼しい場所で保管した場合に比べてバッテリーは早く放電します。

⚠ 危険

電解液には触れると火傷を起こす劇薬である硫酸が含まれている。

- － 電解液を飲まないこと。また、電解液を皮膚や目や衣服に付けないよう十分注意すること。安全ゴーグルとゴム手袋で目と手を保護すること。
- － 皮膚に付いた場合にすぐに洗浄できるよう、必ず十分な量の真水を用意しておくこと。
- ・ バッテリー上部はアンモニア水または重曹水に浸したブラシで定期的に清掃してください。清掃後は表面を水で流して下さい。清掃中はセル・キャップを外さないでください。
- ・ バッテリーのケーブルは、接触不良にならぬよう、端子にしっかりと固定してください。

警告

カリフォルニア州
第65号決議による警告

バッテリーの電極部や端子などの部分には鉛や鉛含有物質が含まれており、カリフォルニア州では、これらの物質が癌や先天性異常の原因となるとされている。
取り扱い後は手を洗うこと。

- ・ 端子が腐食した場合は、ケーブルを外し（マイナス・ケーブルから先に外すこと）、クランプと端子とを別々に磨いてください。磨き終わったらケーブルをバッテリーに接続し（プラス・ケーブルから先に接続すること）、端子にはワセリンを塗布してください。
- ・ 電解液の量は25 運転時間ごとに点検します。格納中は30 日ごとに点検します。

- ・ 各セルへは、蒸留水またはミネラルを含まない水を適正レベルまで補給してください。電解液は上限を超えて入れないでください。
- ・ 本機を30日間以上にわたって格納保管する場合には、バッテリーを機体から外して充電してください。バッテリーは、機体に取り付けて保存しても、別途保存してもかまいませんが、機体に取り付けて保存する場合は、ケーブルを外しておいてください。温度が高いとバッテリーは早く放電するので、涼しい場所を選んで保管してください。バッテリーの凍結を防止するため、フル充電状態で保管する。完全充電すると、バッテリー液の比重は 1.250 となります。

▲ 警告

充電中は爆発性のガスが発生する。

充電中は絶対禁煙を厳守。バッテリーに火気を近づけない。

▲ 警告

バッテリーの端子に金属製品やトラクタの金属部分が触れるとショートを起こして火花が発生する。それによって水素ガスが爆発を起こし人身事故に至る恐れがある。

- ・ バッテリーの取り外しや取り付けを行うときには、端子と金属を接触させないように注意する。
- ・ バッテリーの端子と金属を接触させない。

冷却システムの整備

エンジンのスクリーンとオイル・クーラの清掃

整備間隔： 使用することまたは毎日

使用前に必ず、エンジンのスクリーンとオイル・クーラを点検・清掃してください。オイル・クーラのスクリーンとエンジンのスクリーンにたまった刈りカスや汚れ、ごみを取り除きます（図 53）。

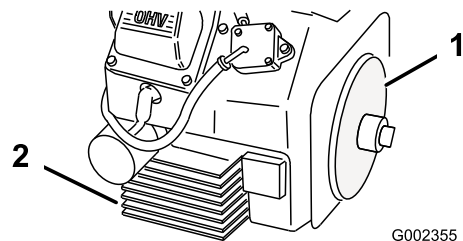


図 53

1. エンジンのスクリーン
2. オイル・クーラ

エンジンの清掃

整備間隔： 100 運転時間ごと

低圧の圧縮空気（2.8 kg 以下）を使って、キャブレター、ガバナ・レバー、リンクの周囲を丁寧に清掃する。これにより、十分な冷却効果と適正なエンジン回転数が確保でき、エンジンのオーバーヒートや損傷の発生を抑えることができます。

ベルトの整備

ベルトの調整

整備間隔： 使用開始後最初の 8 時間
50 運転時間ごと

ベルトに割れ、縁のほつれ、焼けなどの損傷がないか点検してください。破損したベルトは新しいものに交換してください。必要に応じて、各ベルトの状態と張りを点検する。

エンジンのクラッチからジャッキ・シャフトへのベルト

ベルトの点検は以下の手順で行います：

1. ベルト・カバー（図 54）を取り外す。

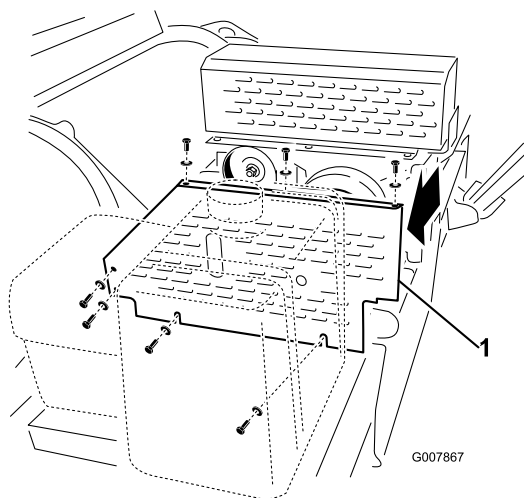


図 54

1. エンジンのクラッチからジャッキ・シャフトへのベルト・カバー

2. ベルトの状態を点検する（図 55）。

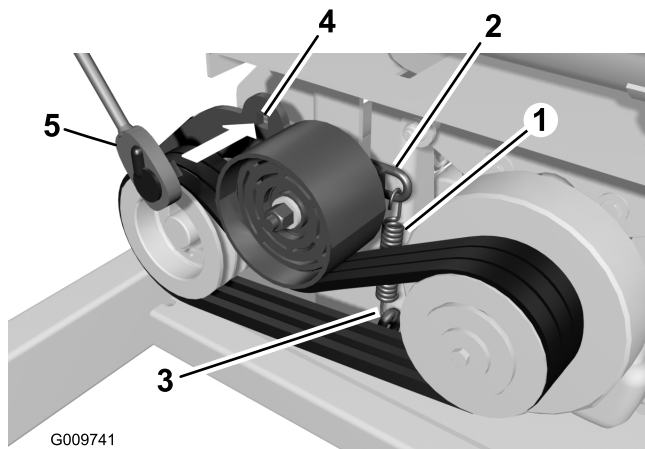


図 55

- | | |
|-------------------|-------------|
| 1. エクステンション・スプリング | 4. 四角穴 |
| 2. ベルト | 5. ソケット・レンチ |
| 3. アイ・ボルト | 6. アイドラ・プーリ |

3. ベルトの張りをなくすには以下の手順で行います：

- A. アイ・ボルトについている下側ナットをゆるめてボルトの端まで移動させる（図 56）。

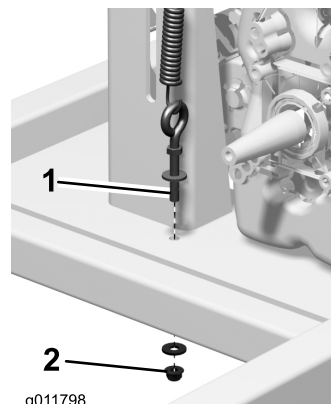


図 56

- | | |
|-----------|----------|
| 1. アイ・ボルト | 2. 下側ナット |
|-----------|----------|

- B. アイドラ・アームの四角穴にソケット・レンチを差し込んで、レンチを上向きに回す（図 55）。

重要 この時に、レンチを無理に上に回すとアイドラ・アームの延長スプリングを破損させる恐れがありますから注意してください。もし、スプリングの長さが、8.9 cm を超えている場合にはスプリングを交換してください。図 57 に示すように、フックの内側から内側までの長さを図って確認してください。

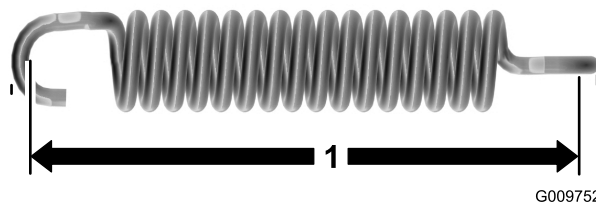


図 57

1. 8.9 cm

4. ベルトの張りを強くするには、アイ・ボルトについている上ナットをゆるめ、下ナットを締め付けてアイ・ボルトの長さを縮めてスプリングの張りを強くします（図 55 と 図 58）。

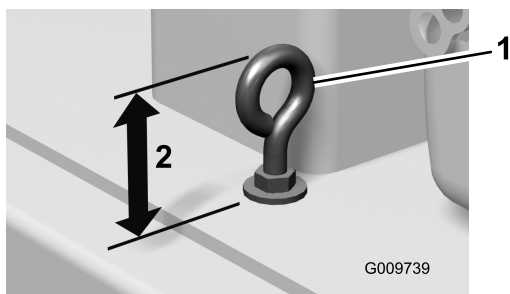


図 58

1. アイ・ボルト 2. アイ・ボルトの高さ

らアイドラ・プーリのナットを締め付ける (図 59)。

6. トルク・レンチとベルト張り工具を取り外す。
7. ベルト・カバーを取り付ける。

5. ベルト・カバーを取り付ける。

ジャッキ・シャフトからチョッパーへのベルト

ベルトの張りの点検は以下の手順で行います：

1. ベルト・カバー (図 59) を取り外す。

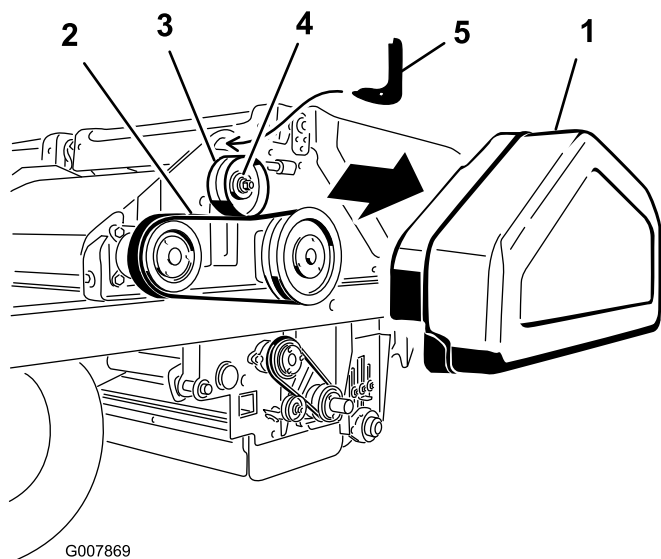


図 59

- | | |
|----------------------------------|------------|
| 1. ジャッキ・シャフトからチョッ
パーへのベルト・カバー | 4. ナット |
| 2. ジャッキ・シャフトからチョッ
パーへのベルト | 5. ベルト張り工具 |
| 3. アイドラ・プーリ | |

2. アイドラ・プーリのナットをゆるめる (図 59)。
3. アイドラ・プーリの上側にある穴に、ベルト張り工具のフック状の端部を入れる (図 59)。ベルト張り工具のカーブのついている方の端部をアイドラ・プーリに載せる。
4. ベルト張り工具についでいる穴に、1/2 インチのトルク・レンチのソケットを入れる (図 59)。
5. 工具を手前に回してトルクが 0.6 kg になるようにし、その位置でトルクを保持しながら

チョッパーからブラシへのベルト

調整やベルトの再取り付けは以下の手順で行います：

1. ベルト・カバー（図 60）を取り外す。

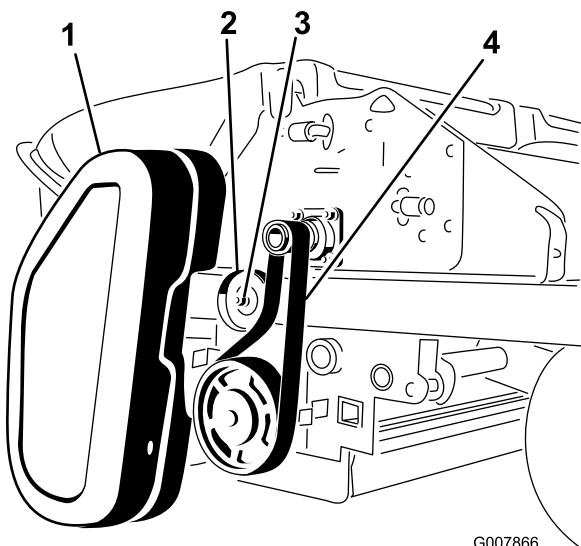


図 60

- | | |
|----------------------------|------------------------|
| 1. チョッパーからブラシへの
ベルト・カバー | 3. ナット |
| 2. アイドラ・プーリ | 4. チョッパーからブラシへの
ベルト |

2. アイドラ・プーリのナットをゆるめる（図 60）。
3. チョッパーのシャフトとブラシのプーリから、ベルトを外す（図 60）。
4. ブラシ・プーリを回して、ブラシの列を回転コーナーに整列させる（図 61）。

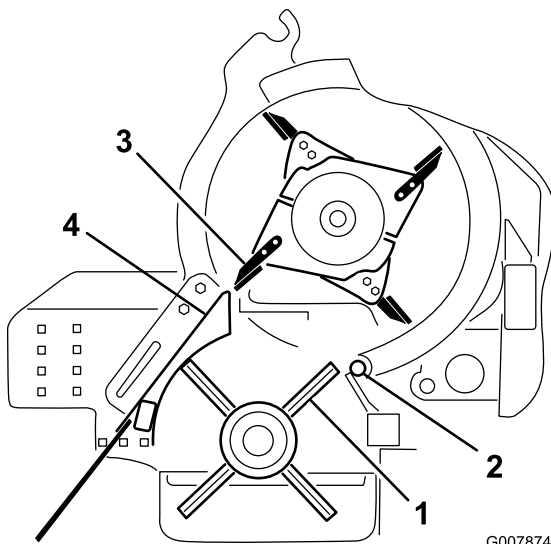


図 61

- | | |
|-----------|--------------|
| 1. ブラシの列 | 3. ブレードの刃先 |
| 2. 回転コーナー | 4. ブラシ・ハウジング |

5. チョッパーを回して、ブレードの刃先をブラシ・ハウジングの外側にそろえる（図 61）。
6. チョッパーのシャフトに、注意深くベルトを通す。チョッパーのシャフトを回転させないようにすること。
7. ベルトの右側にテンションをかけながら、ベルトの下半分を、ブラシ・プーリの溝に掛ける。ブラシ・プーリを回転させないようにすること。
8. アイドラ・プーリをベルトに押し付けながら、アイドラ・プーリのナットを締め付ける。

ブラシから回転コーナーへのベルト

ベルトに張りを出すには以下の手順で行います：

1. ベルト・カバー（図 62）を取り外す。
2. アイドラ・プーリのナットをゆるめる（図 62）。

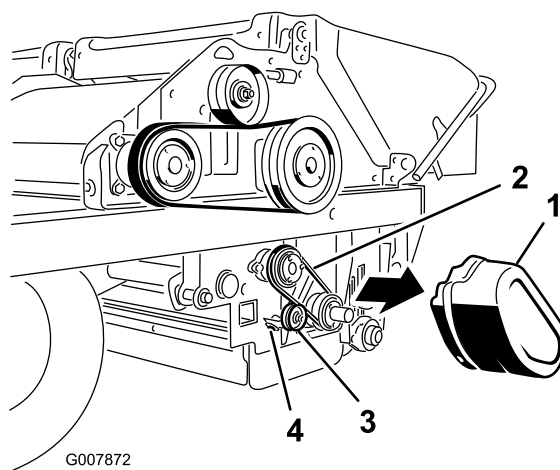


図 62

- | | |
|-----------------------------|-------------|
| 1. ブラシから回転コーナーへ
のベルト・カバー | 3. アイドラ・プーリ |
| 2. ブラシから回転コーナーへ
のベルト | 4. ナット |

3. アイドラ・プーリをベルトに押し付け、アイドラ・プーリのナットを締め付ける（図 62）。
4. ベルト・カバーを取り付ける。

油圧系統の整備

油圧ラインとホースの点検

▲ 警告

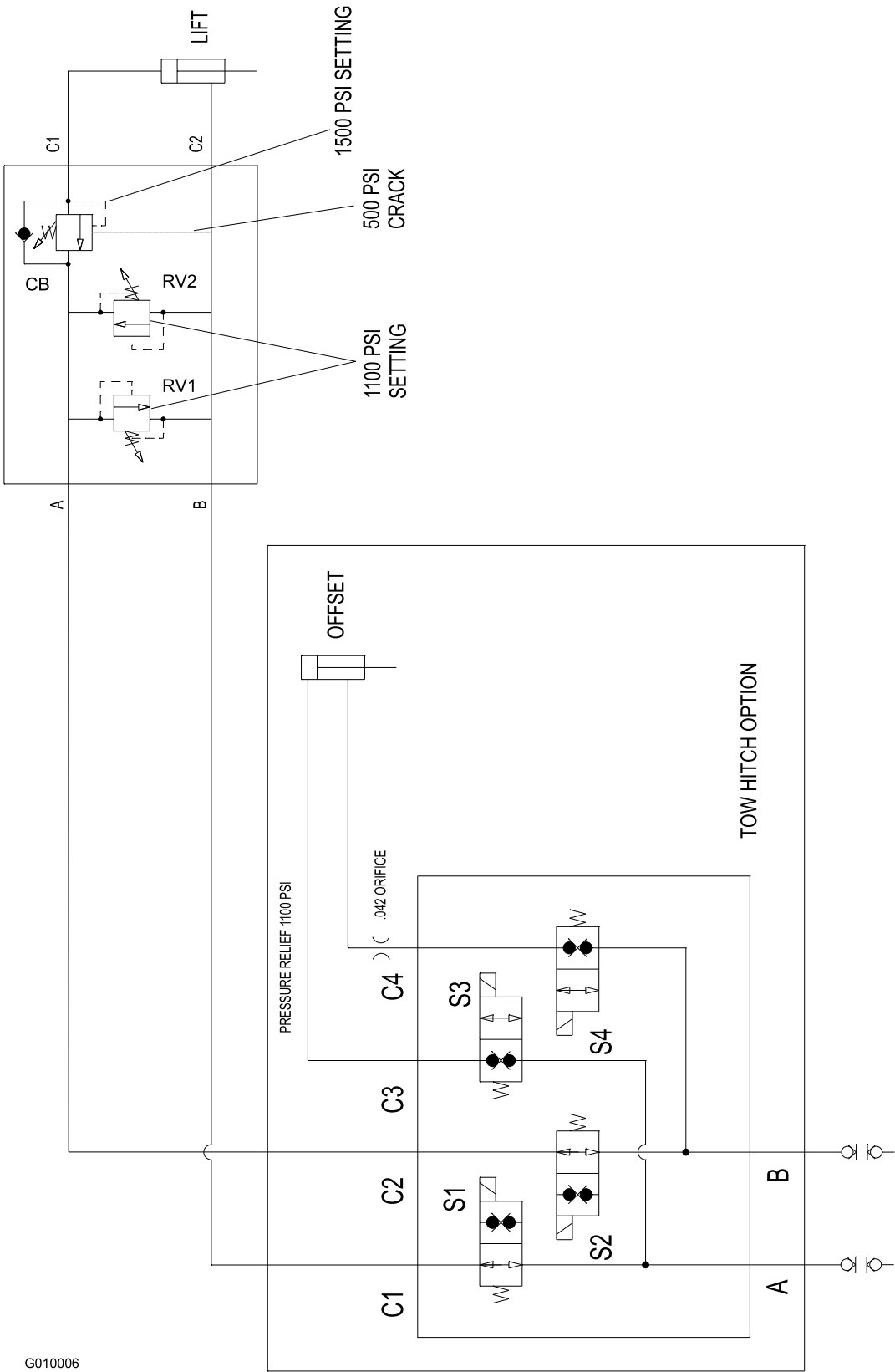
高压で噴出する作動油は皮膚を貫通し、身体に重大な損傷を引き起こす。

- ・ 油圧を掛ける前に、油圧ラインやホースに傷や変形がないか接続部が確実に締まっているかを確認する。
- ・ 油圧のピンホール・リークやノズルからは油圧オイルが高压で噴出しているので、手などを近づけないでください。
- ・ リークの点検には新聞紙やボール紙を使ってください。
- ・ 油圧システムの整備作業を行う前に、内部の圧力を完全に解放しておくこと。
- ・ 万一オイルが皮下に入ったら直ちに専門医の手当てを受ける。

油圧ライン・油圧ホースにオイル漏れ、ねじれ、支持部のゆるみ、磨耗、フィッティングのゆるみ、風雨や薬品による劣化などがないか毎日点検してください。異常を発見したら必ず運転を行う前に修理してください。

保管

1. ブラシ・ハウジングとチョッパーを水で洗い、洗剤で洗剤を洗い、エンジン始動し、チョッパーが回転をするまでエンジンの速度を上げる。機体の後部（左側または右側）に立ち、その位置からホースでチョッパーに水をかけ、きれいになるまでこれを続ける。
2. 全部のボルトナット類を点検する。必要に応じて締め付けを行う。
3. 必要な箇所すべてのグリスアップはみ出したグリスはふき取る。
4. ブラシとブレードの点検を行う。必要に応じて交換する。
5. エア・クリーナの整備をする。「エア・クリーナの整備」を参照。
6. 機体全体のグリスアップと注油を行う；「潤滑」の項を参照。
7. エンジン・オイルを交換する。「エンジン・オイルについて」を参照。
8. タイヤ空気圧を点検する；「タイヤ空気圧を点検する」を参照。
9. バッテリーを充電する；「バッテリーの整備」を参照。
10. 牽引車両から切り離すときには、コアプロセッサを地面まで降下させ、格納保管用ピンを前穴に取り付け、その後に牽引接続と油圧接続を解除する。これにより、牽引車両から外してもコアプロセッサが安定するようになる。



G010006

油圧系統 (Rev. F)



51



Toro 製品の総合品質保証

限定保証

保証条件および保証製品

Toro® 社およびその関連会社であるToro ワランティー社は、両社の合意に基づき、Toro 社の製品（「製品」と呼びます）の材質上または製造上の欠陥に対して、2年間または1500運転時間のうちいずれか早く到達した時点までの品質保証を共同で実施いたします。この保証は、エアレータ以外のすべての機器に適用されます（エアレータ製品については別途保証があります）。この品質保証の対象となった場合には、弊社は無料で「製品」の修理を行います。この無償修理には、診断、作業工賃、部品代、運賃が含まれます。保証は「製品」が納品された時点から有効となります。
* アワー・メータを装備している「製品」に適用します。

保証請求の手続き

保証修理が必要だと思われる場合には、「製品」を納入した弊社代理店（ディストリビュータ又はディーラー）に対して、お客様から連絡をして頂くことが必要です。連絡先がわからなかったり、保証内容や条件について疑問がある場合には、本社に直接お問い合わせください。

Commercial Products Service Department
Toro Warranty Company
8111 Lyndale Avenue South
Bloomington, MN 55420-1196
E-mail: commercial.warranty@toro.com

オーナーの責任

「製品」のオーナーは、オペレーターズマニュアルに記載された整備や調整を実行する責任があります。これらの保守を怠った場合には、保証が受けられないことがあります。

保証の対象とならない場合

保証期間内であっても、すべての故障や不具合が保証の対象となるわけではありません。以下に挙げるものは、この保証の対象とはなりません：

- Toroの純正交換部品以外の部品やToro以外のアクセサリ類を搭載して使用したことが原因で発生した故障や不具合。これらの製品については、別途製品保証が適用される場合があります。
- 推奨される整備や調整を行わなかったことが原因で生じた故障や不具合。オペレーターズマニュアルに記載されている弊社の推奨保守手順に従った適切な整備が行われていない場合。
- 運転上の過失、無謀運転など「製品」を著しく過酷な条件で使用したことが原因で生じた故障や不具合。
- 通常の使用に伴って磨耗消耗する部品類。但しその部品に欠陥があった場合には保証の対象となります。通常の使用に伴って磨耗消耗する部品類とは、ブレーキ・パッドおよびライニング、クラッチ・ライニング、ブレード、リール、ベッドナイフ、タイン、点火プラグ、キャスタホイール、タイヤ、フィルタ、ベルトなどを言い、その他、液剤散布用の部品としてダイヤフラム、ノズル、チェック・バルブなどが含まれます。
- 外的な要因によって生じた損害。外的な要因とは、天候、格納条件、汚染、弊社が認めていない冷却液や潤滑剤、添加剤、肥料、水、薬剤の使用などが含まれます。
- 通常の使用に伴う運転音や振動、汚れや傷、劣化。
- 通常の使用に伴う「汚れや傷」とは、運転席のシート、機体の塗装、ステッカー類、窓などに発生する汚れや傷を含みます。

米国とカナダ以外のお客様へ

米国またはカナダから輸出された製品の保証についてのお問い合わせは、お買いあげのToro 販売代理店（ディストリビュータまたはディーラー）へおたずねください。代理店の保証内容にご満足いただけない場合はToro輸入元にご相談ください。輸入元の対応にご満足頂けない場合はToro ワランティー社へ直接お問い合わせください。

部品

定期整備に必要な部品類（「部品」）は、その部品の交換時期が到来するまで保証されます。この保証によって交換された部品は製品の当初保証期間中、保証の対象となり、取り外された製品は弊社の所有となります。部品やアセンブリを交換するか修理するかの判断は弊社が行います。場合により、弊社は再製造部品による修理を行います。

ディーブ・サイクル・バッテリーの保証について：

ディーブ・サイクル・バッテリーは、その寿命中に放出することのできるエネルギーの総量（kWh）が決まっています。一方、バッテリーそのものの寿命は、使用方法、充電方法、保守方法により大きく変わります。バッテリーを使用するにつれて、完全充電してから次に完全充電が必要になるまでの使用可能時間は徐々に短くなってゆきます。このような通常の損耗を原因とするバッテリーの交換は、オーナーの責任範囲です。本製品の保証期間中に、上記のような通常損耗によってオーナーの負担によるバッテリー交換の必要性がでてくることは十分に考えられます。

保守整備に掛かる費用はオーナーが負担するものとします

保証の対象とならない部品や作業など：エンジンのチューンナップ、潤滑、洗浄、磨き上げ、フィルタや冷却液の交換、推奨定期整備の実施などは「製品」の維持に必要な作業であり、これらに関わる費用はオーナーが負担します。

その他

上記によって弊社代理店が行う無償修理が本保証のすべてとなります。

両社は、本製品の使用に伴って発生しうる間接的偶発的結果的損害、例えば代替機材に要した費用、故障中の修理関連費用や装置不使用に伴う損失などについて何らの責も負うものではありません。両社の保証責任は上記の交換または修理に限らせていただきます。その他については、排気ガス関係の保証を除き、何らの明示的な保証もお約束するものではありません。

商品性や用途適性についての黙示的内容についての保証も、本保証の有効期間中のみに限って適用されます。米国内では、間接的偶発的損害にたいする免責を認めていない州があります。また黙示的な保証内容に対する有効期限の設定を認めていない州があります。従って、上記の内容が当てはまらない場合があります。

この保証により、お客様は一定の法的権利を付与されますが、国または地域によっては、お客様に上記以外の法的権利が存在する場合もあります。

エンジン関係の保証について：

米国においては環境保護局（EPA）やカリフォルニア州法（CARB）で定められたエンジンの排ガス規制および排ガス規制保証があり、これらは本保証とは別個に適用されます。くわしくはエンジンメーカーのマニュアルをご参照ください。上に規定した期限は、排ガス浄化システムの保証には適用されません。くわしくは、オペレーターズマニュアル またはエンジンメーカーからの書類に記載されている、エンジンの排ガス浄化システムの保証についての説明をご覧ください。